

Wagby クラウド  
ご利用マニュアル



株式会社パルシス

# 目次

1. WagbyDesignerにWagbyクラウドのお客様情報を設定.....	4
2. WagbyアプリケーションをWagbyクラウドサーバへ転送.....	5
2.1. Wagbyクラウド転送の流れ.....	5
2.2. Wagbyクラウドへ【クラウドに転送】する前の作業.....	6
2.2.1. 接続DB設定の書き換え.....	6
2.2.2. フルビルドを実行.....	7
2.3. Wagbyクラウドサーバのデータバックアップ.....	8
2.4. 【クラウドに転送】を実行.....	9
2.5. バックアップからデータベースを復元.....	11
2.5.1. 【クラウドに転送】したWagbyアプリケーションにログオン.....	11
2.5.2. バックアップをインポート.....	12
2.6. 接続DB設定を戻す.....	13
3. Wagbyアプリケーションを操作.....	14
3.1. 【クラウドに転送】.....	15
3.2. 【起動】/【停止】.....	17
3.2.1. 【アプリケーションの入替】.....	18
3.2.2. 【1つ前のアプリケーションに戻す】.....	20
3.3. 【再起動】.....	22
3.4. 【ログオン画面を開く】.....	23
4. データファイルを操作.....	24
4.1. Wagbyクラウドサーバ上のエクスポートファイルを操作.....	24
4.2. Wagbyクラウドサーバへエクスポートファイルをアップロード.....	25
4.3. アップロードファイルのダウンロード.....	27
4.4. アップロードファイルのアップロード.....	29
5. サーバのステータス及びログを確認.....	33
5.1. CloudWatchへサインイン.....	33
5.2. サーバステータスの確認.....	36
5.2.1. グラフの操作.....	38

5.3. サーバログを確認.....	40
6. Wagby クラウド on AWS のデータベースへアクセス .....	42
6.1. コントロールサーバへ接続.....	43
6.2. SSH 転送の設定 .....	46
6.2.1. MySQL の場合 .....	47
6.2.2. PostgreSQL の場合 .....	47
6.2.3. 設定完了 .....	48
6.3. データベースに接続 .....	48
7. FAQ.....	49
8. 各データ .....	50
8.1. グラフの詳細.....	50
8.1.1. Database_Status.....	50
8.1.2. WagbyCloud_Server_Software.....	50
8.1.3. WagbyCloud_Server_Status.....	51
8.2. ログの詳細.....	51
8.2.1. HttpdLogGroup .....	51
8.2.2. SystemLogGroup .....	51
8.2.3. WagbyLogGroup .....	52

## 1. WagbyDesigner に Wagby クラウドのお客様情報を設定

Wagby クラウドをご使用頂く前に WagbyDesigner に Wagby クラウドサーバへ接続するために必要な設定情報を入力しておく必要があります。

WagbyDesigner のメニューから【運用】→【クラウド】→【アプリケーション】の順に選択して Wagby クラウドサーバ上の Wagby アプリケーションを操作する画面を表示します。

画面下部の【環境設定】の項目に『Wagby クラウドお客様情報』に書かれている情報を入力します。

項目名	参照先	説明
ホスト名	Wagby クラウドお客様情報『Wagby クラウドホスト名』	クラウド転送先ホスト名
アクセスキー	Wagby クラウドお客様情報『Wagby クラウドアクセスキー』	クラウド転送時の認証に使用
アカウント	Wagby クラウドお客様情報『Wagby アカウント』	Wagby ライセンス認証用アカウント
パスワード	Wagby クラウドお客様情報『Wagby パスワード』	Wagby ライセンス認証用パスワード
ライセンス ID	Wagby クラウドお客様情報『Wagby ライセンス ID』	Wagby ライセンス認証用 ID

全て入力したら一番下の【接続確認】ボタンを押します。

The screenshot shows the WagbyDesigner interface with the '運用' (Operation) menu selected. The 'クラウド' (Cloud) sub-menu is active, and the 'アプリケーション' (Application) section is selected. The '環境設定' (Environment Settings) section is expanded, showing a form for 'Wagby クラウドお客様情報' (Wagby Cloud Customer Information). The form fields are: Hostname (xxxxxxx.fastwagbycloud.com), Access Key (xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx), Account (wagbycloud\_xxxxx\_xxx), Password (\*\*\*\*\*), License ID (1234), and Proxy Server (HTTP Proxy and Port). A '接続確認' (Connect Confirmation) button is highlighted at the bottom.

接続確認が成功すると【クラウドに転送】ボタンのグレイ反転が解除されて押せるようになります。

Wagby R7.8.0 以降では以下のように接続確認成功のダイアログボックスが立ち上がります。

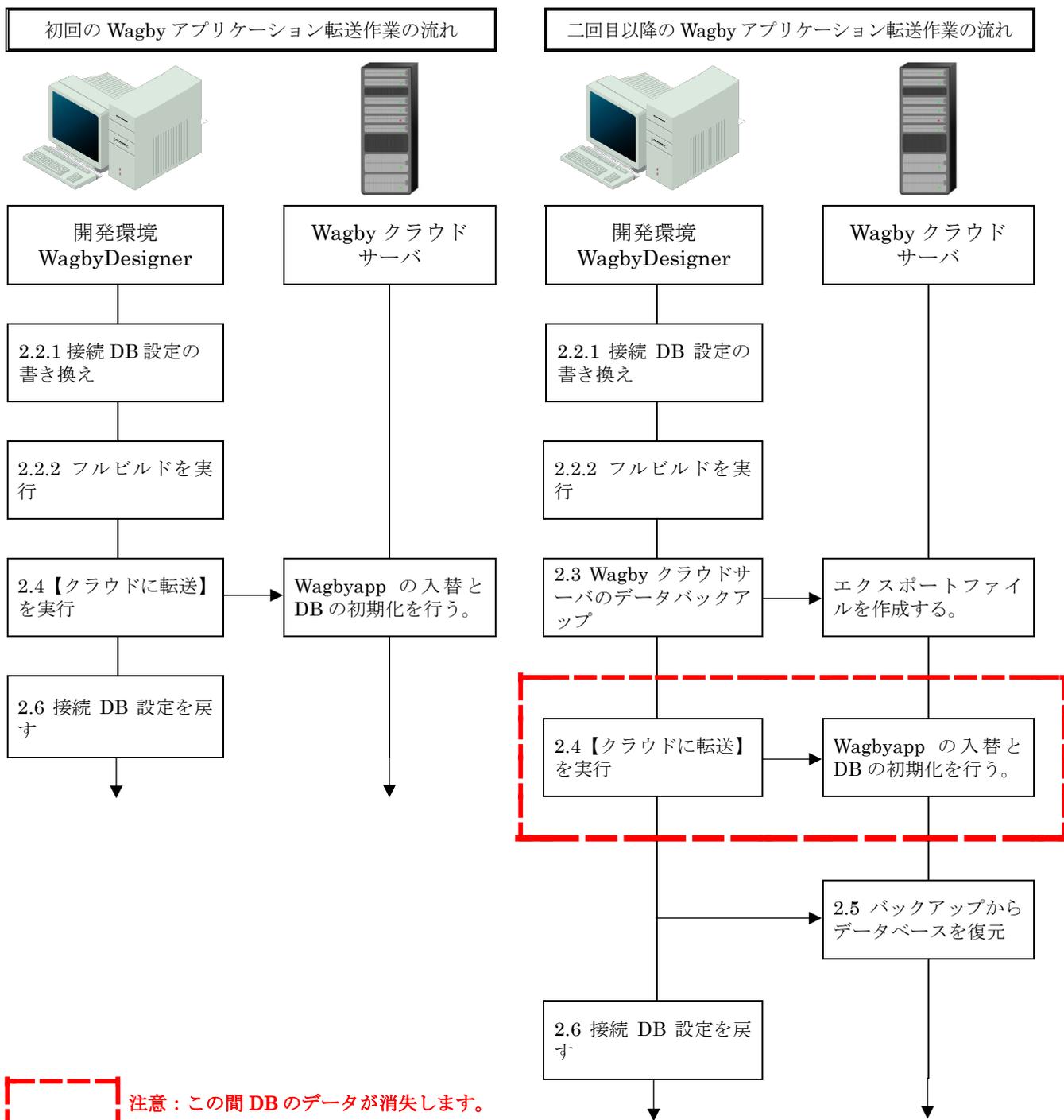


## 2. Wagby アプリケーションを Wagby クラウドサーバへ転送

### 2.1. Wagby クラウド転送の流れ

開発した Wagby アプリケーションを Wagby クラウドサーバへクラウド転送するときの作業の流れをフロー形式で示しています。

仕様上【クラウドに転送】をするとデータベースが初期化してしまうため、二回目以降の【クラウドに転送】でデータベースのデータを消したくない場合は事前にエクスポートでデータをバックアップしておき、【クラウドに転送】後にインポートする手順が必要になります。



## 2.2. Wagby クラウドへ【クラウドに転送】する前の作業

### 2.2.1. 接続 DB 設定の書き換え

Wagby クラウド on AWS のデータベース環境は Wagby クラウドサーバとは別に存在します。そのため【クラウドに転送】をする前に、一度 Wagby クラウド on AWS のデータベース環境に合わせて WagbyDesigner のデータベース接続の【接続 URL】を書き換えて【フルビルド】する必要があります。WagbyDesigner のメニューから【環境】→【データベース】の順に選択してデータベース設定画面を表示します。

設定項目は以下の通り。

データベース	お客様情報の『データベースの種類』をご参照下さい。
接続 URL	データベースの種類によって異なります。 【データベース】の項目でデータベースの種類を変更するとそれに合わせてテンプレートの内容に変更されます。 テンプレートのホスト名はデフォルトで「localhost」（【Wagby クラウドデータベース接続 URL】）及びデータベース名「wagbydb」（【データベース名】）になっていますが、それをそれぞれお客様情報の『Wagby クラウドデータベース接続 URL』と『データベース名』を代入します。  MySQL の場合 jdbc:mysql://【Wagby クラウドデータベース接続 URL】/【データベース名】?useUnicode=true&relaxautoCommit=true&zeroDateTimeBehavior=convertToNull  PostgreSQL の場合 jdbc:postgresql://【Wagby クラウドデータベース接続 URL】/【データベース名】
ユーザー名	お客様情報の『データベースユーザー名』をご参照下さい。
パスワード	お客様情報の『データベースパスワード』をご参照下さい。

The screenshot shows the '環境' (Environment) tab in WagbyDesigner. The 'データベース' (Database) sub-tab is selected. The 'データベース接続' (Database Connection) section is highlighted with a red box. It contains the following fields:

- データベース: MySQL
- 接続URL: jdbc:mysql://XXXXXXXXdb.fastwagbycloud.com/wagbydb?useUnicode=true&relaxautoCommit=true&zeroDateTimeBeh
- ユーザー名: dbuser
- パスワード: [masked]

Below the connection fields, there are two notes:

- ※ データベース変更後はフルビルドが必要です。
- ※ 外部データベース利用時はJDBCドライバファイルを忘れずにコピーしてください。

The 'データベース環境' (Database Environment) section is also visible, showing settings for:

- 文字エンコード: UTF-8
- 識別子の区切り文字: [dropdown]
- データベースの自動再接続を有効にする
- 最大接続数: 24
- 未使用接続の最大数: 8
- 最大待ち時間: 2000

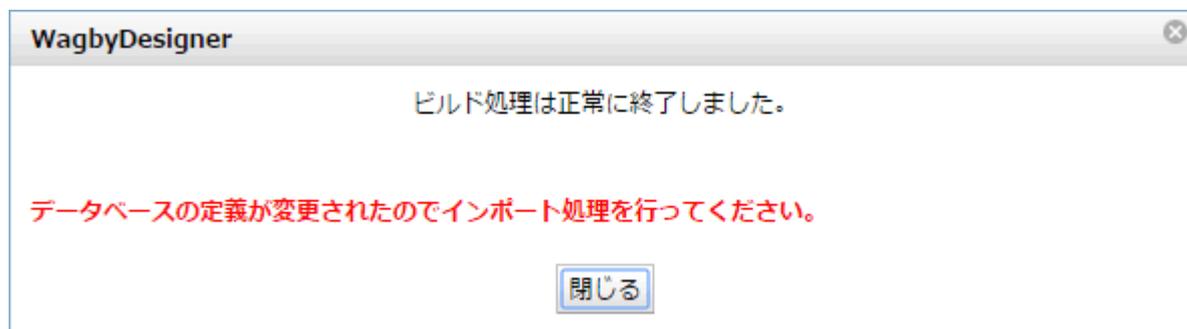
## 2.2.2. フルビルドを実行

データベース接続の変更を Wagby アプリケーションに反映するためにフルビルドを実行します。

WagbyDesigner のメニューから【ビルド】を選択して『ビルドの種別』から【フルビルド】を選択して【ビルド実行】 ボタンを押します。



正常にビルドが完了したのを確認します。



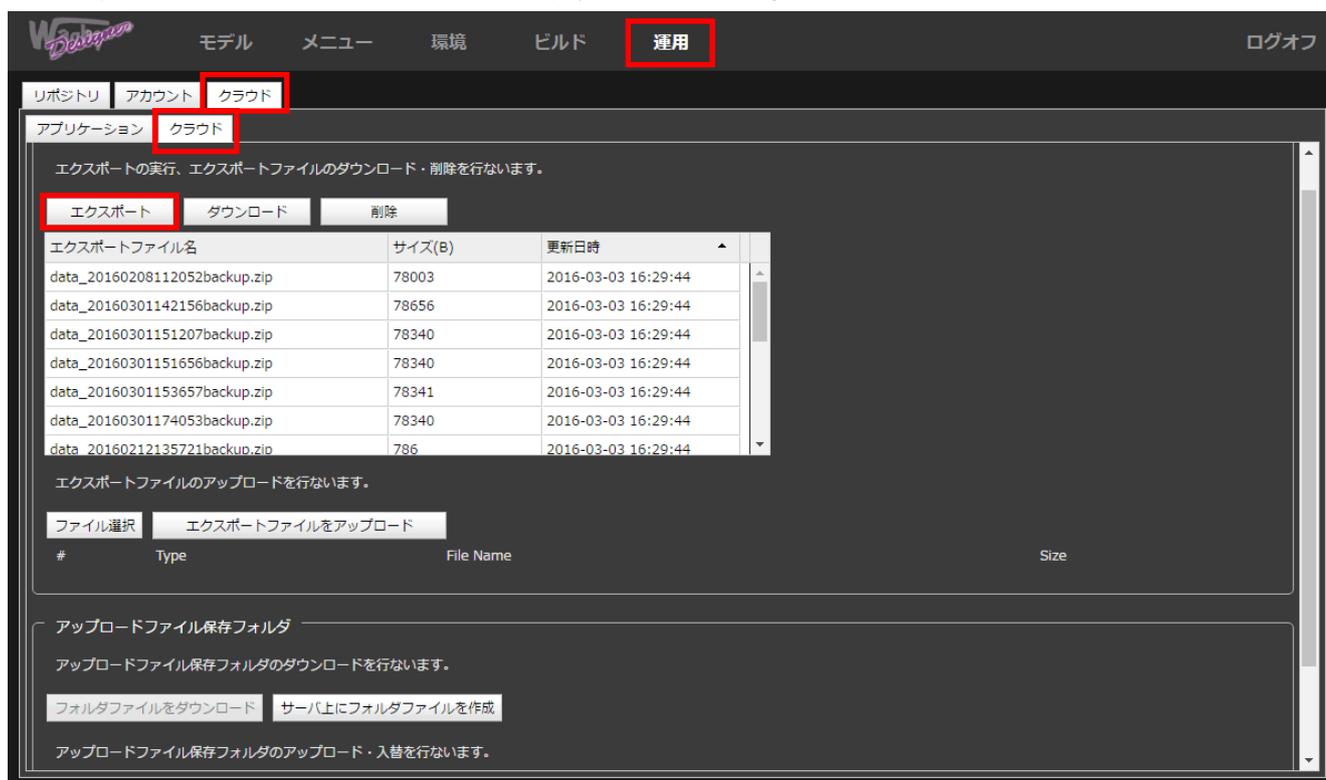
### 2.3. Wagby クラウドサーバのデータバックアップ

仕様上【クラウドに転送】を実行すると Wagby クラウド環境のデータベースが初期化します。重要なデータを失わないためにも、二回目以降【クラウドに転送】する前に一度データベースのデータを【エクスポート】してバックアップしておく必要があります。

Wagby アプリケーションにログオンして【インポートとエクスポート】でもデータのバックアップができますが、ログオンしなくても WagbyDesigner 上からでも直接同様の操作が可能です。

WagbyDesigner のメニューから【運用】→【クラウド】→【クラウド】(旧バージョンの WagbyDesigner では【データ】)の順に選択して Wagby クラウドサーバとデータのやり取りを操作する画面に遷移します。その中で【エクスポート】ボタンを押すとエクスポートが実行されます。

※【インポートとエクスポート】と比べてこの操作でエクスポートした場合は jfcmodel、jfcmodel4dm 等の定義モデルの確認、データメンテナンスに表示されるデータも含まれてファイル容量が大きくなっていますが、インポート時には使用しないため影響はありません。



エクスポートの実行、エクスポートファイルのダウンロード・削除を行いません。

エクスポートファイル名	サイズ(B)	更新日時
data_20160208112052backup.zip	78003	2016-03-03 16:29:44
data_20160301142156backup.zip	78656	2016-03-03 16:29:44
data_20160301151207backup.zip	78340	2016-03-03 16:29:44
data_20160301151656backup.zip	78340	2016-03-03 16:29:44
data_20160301153657backup.zip	78341	2016-03-03 16:29:44
data_20160301174053backup.zip	78340	2016-03-03 16:29:44
data_20160212135721backup.zip	786	2016-03-03 16:29:44

エクスポートファイルのアップロードを行いません。

ファイル選択 エクスポートファイルをアップロード

#	Type	File Name	Size
---	------	-----------	------

アップロードファイル保存フォルダ

アップロードファイル保存フォルダのダウンロードを行いません。

フォルダファイルをダウンロード サーバ上にフォルダファイルを作成

アップロードファイル保存フォルダのアップロード・入替を行いません。

しばらくするとエクスポート完了のダイアログボックスが立ち上がります。



ファイルは「data\_YYYYMMDDHHMMSSbackup.zip」というファイル名で保存されています。

## 2.4. 【クラウドに転送】を実行

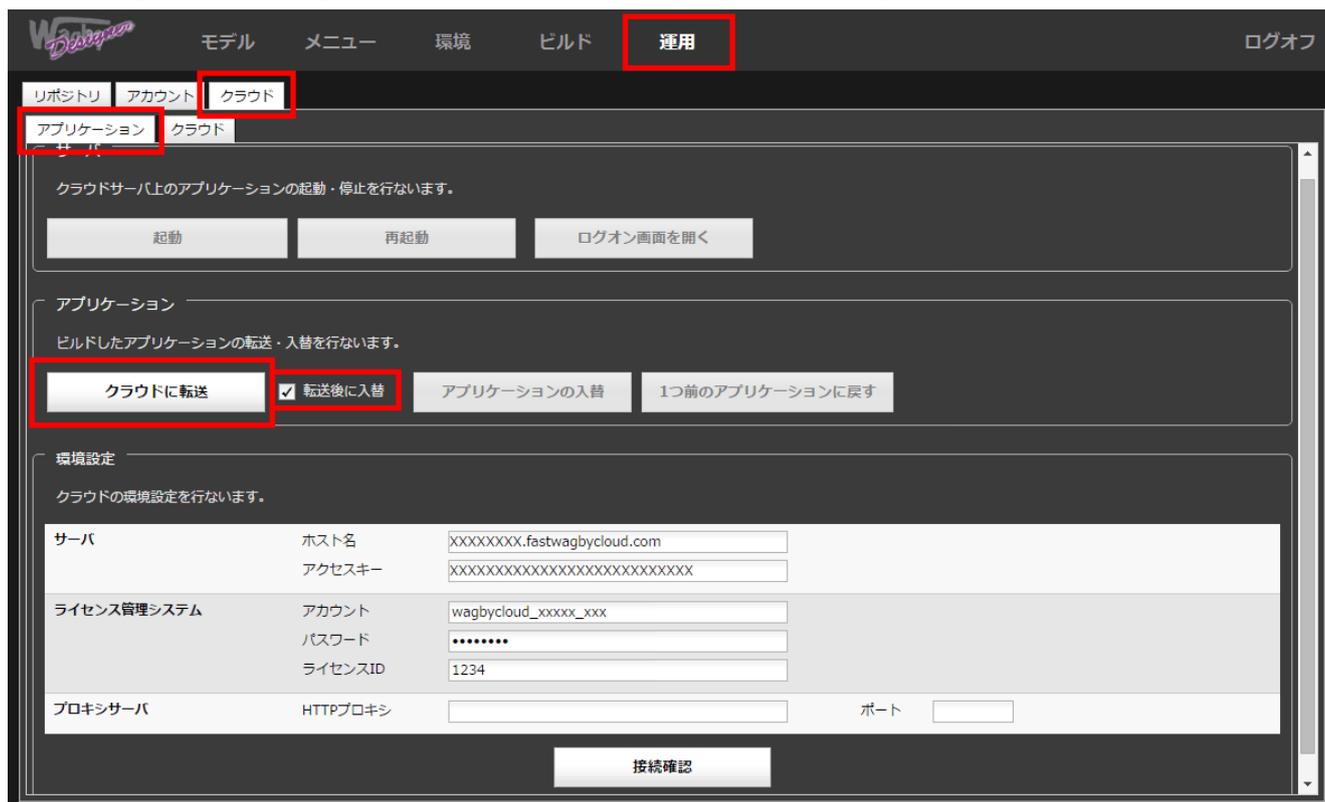
ビルドした Wagby アプリケーションを Wagby クラウドサーバへ転送します。

### 【注意】

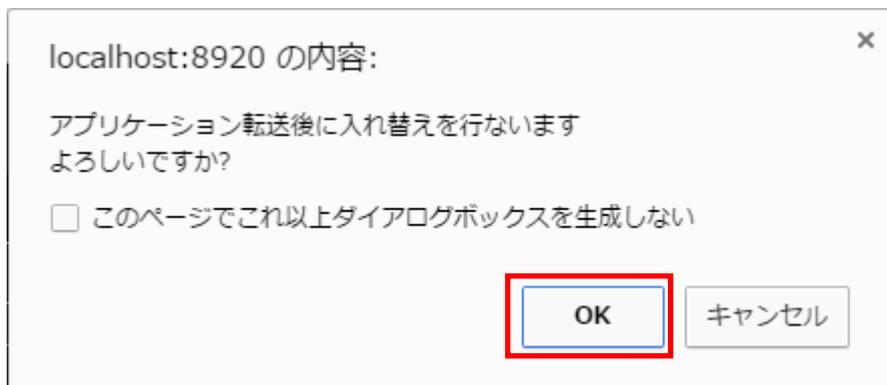
【クラウドに転送】実行からインポートを行うまでの間データベースデータが初期化状態になっています。既に運用しているシステムに【クラウドに転送】する場合は十分ご注意ください。

WagbyDesigner のメニューから【運用】→【クラウド】→【アプリケーション】の順に選択して Wagby クラウドサーバ上の Wagby アプリケーションを操作する画面に遷移します。

その中で【転送後に入替】にチェックを入れてから【クラウドに転送】ボタンを押します。



確認ダイアログボックスが立ち上がるので【OK】ボタンを押します。



しばらくしてから【クラウドに転送】が完了すると以下のようなダイアログボックスが立ち上がります。



## 2.5. バックアップからデータベースを復元

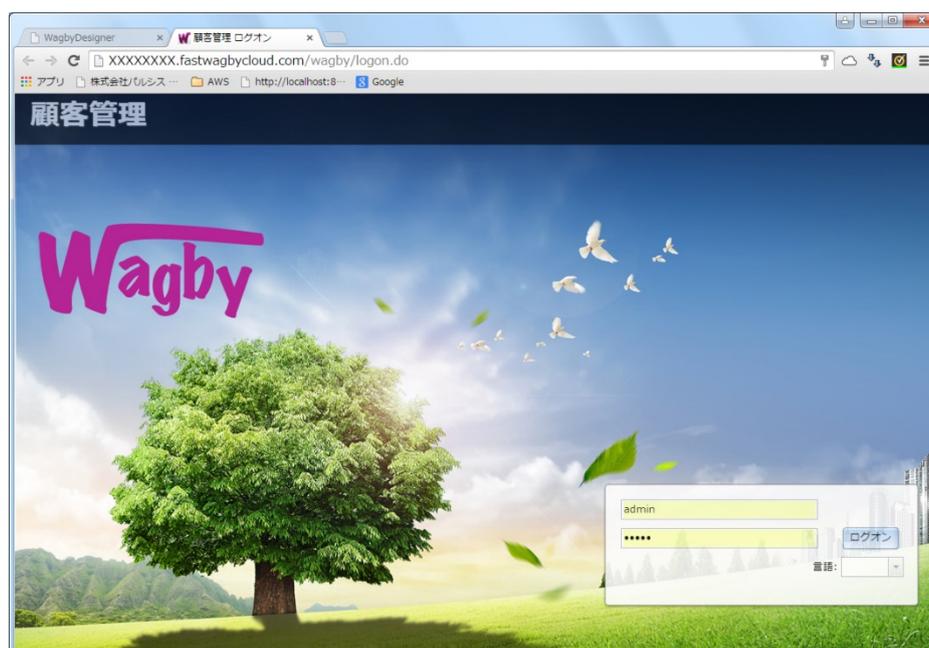
### 2.5.1. 【クラウドに転送】した Wagby アプリケーションにログイン

【クラウドに転送】が完了するとサーバの項目の Wagby アプリケーションを操作するボタンのグレイ反転が解除されます。

その中で【ログイン画面を開く】ボタンをクリックすると実際の Wagby アプリケーションのログイン画面に遷移することができます。



ログイン画面から管理者でログインします。



## 2.5.2. バックアップをインポート

Wagby アプリケーションにログインしたら【管理処理】の【インポートとエクスポート】でデータをインポートします。

インポートの方法につきましては Wagby のオンラインマニュアルをご参考下さい。



## 2.6. 接続 DB 設定を戻す

Wagby クラウド用に変更した接続 DB の設定を開発用に元の状態に戻します。

WagbyDesigner のメニューから【環境】→【データベース】の順に選択してデータベース設定画面の設定を開発環境に合わせて戻して下さい。

The screenshot shows the Wagby Designer interface with the '環境' (Environment) menu item selected. The 'データベース' (Database) sub-menu is also selected. The '接続' (Connection) section is active, displaying the following settings:

データベース	MySQL
接続URL	jdbc:mysql://localhost/wagbydb?useUnicode=true&relaxautoCommit=true&zeroDateTimeBehavior=convertToNull
ユーザ名	wagbyuser
パスワード	*****

Below the connection settings, the '環境' (Environment) section is visible with the following settings:

文字エンコード	UTF-8
識別子の区切り文字	[Dropdown]
<input type="checkbox"/> データベースの自動再接続を有効にする	
最大接続数	24
未使用接続の最大数	8
最大待ち時間	2000

以上で Wagby アプリケーションを Wagby クラウドサーバへ転送する手順は完了です。

### 3. Wagby アプリケーションを操作

WagbyDesigner 上から Wagby クラウドサーバにある Wagby アプリケーションを操作することができます。

WagbyDesigner のメニューから【運用】→【クラウド】→【アプリケーション】の順に選択して Wagby クラウドサーバ上の Wagby アプリケーションを操作する画面に遷移します。

「サーバ」項にある各ボタンで操作することが可能です。Wagby アプリケーションが停止状態だと【アプリケーションの入替】や【1つ前のアプリケーションに戻す】といったボタンも使用できようになります。

WagbyDesigner

モデル    メニュー    環境    ビルド    **運用**    ログオフ

リポジトリ    アカウント    **クラウド**

**アプリケーション**    クラウド

サーバ

クラウドサーバ上のアプリケーションの起動・停止を行ないます。

停止    再起動    ログオン画面を開く

アプリケーション

ビルドしたアプリケーションの転送・入替を行ないます。

クラウドに転送     転送後に入替    アプリケーションの入替    1つ前のアプリケーションに戻す

環境設定

クラウドの環境設定を行ないます。

サーバ	ホスト名	XXXXXXXXX.fastwagbycloud.com		
	アクセスキー	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX		
ライセンス管理システム	アカウント	wagbycloud_xxxxx_xxx		
	パスワード	*****		
	ライセンスID	1234		
プロキシサーバ	HTTPプロキシ		ポート	

接続確認

### 3.1. 【クラウドに転送】

開発環境の Wagby アプリケーションを Wagby クラウドサーバへ転送するためのボタンです。

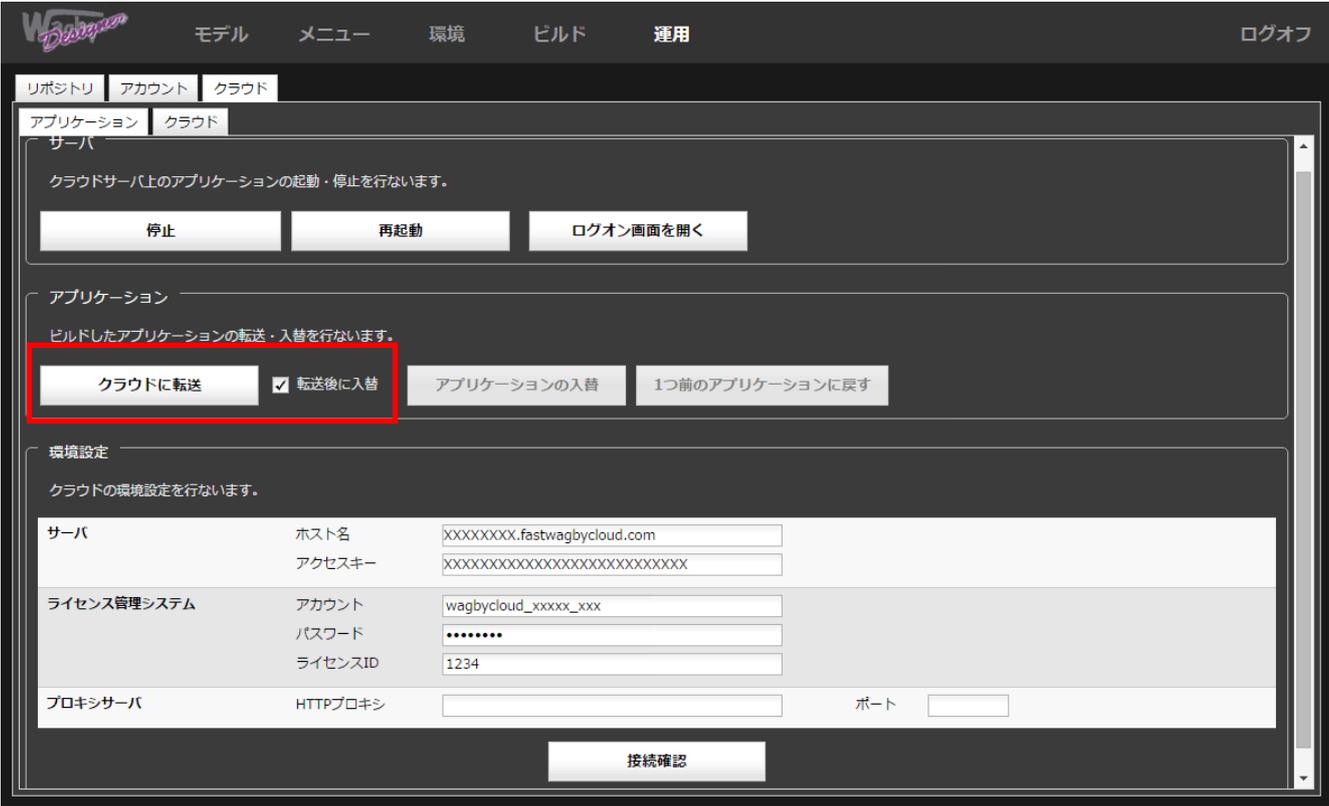
初めて Wagby クラウドを使用するときは最初に【クラウドに転送】をしなければ他の機能を使用することができません。

このボタンを実行すると開発環境の `wagbyapp` ディレクトリを `zip` 形式に圧縮して「`wagbyapp.zip`」を作成し、Wagby クラウドサーバへアップロードします。

アップロードするとき古い「`wagbyapp.zip`」を上書きするので Wagby クラウドサーバは常に最新の「`wagbyapp.zip`」を一つだけ保持します。

【クラウドに転送】自体の機能は「`wagbyapp.zip`」を Wagby クラウドサーバへアップロードするまでですが、【転送後に入替】にチェックを入れておくと、アップロード完了後自動的に今起動中の Wagby アプリケーションを停止させてから『3.2.1 【アプリケーションの入替】』を実行します。

【転送後に入替】にチェックを入れなかった場合は手動で【停止】ボタンを押して Wagby アプリケーションを停止させてから『3.2.1 【アプリケーションの入替】』を実行して下さい。これを使えば事前に「`wagbyapp.zip`」を転送しておいてタイミングを見計らって【アプリケーションの入替】を実行することもできます。

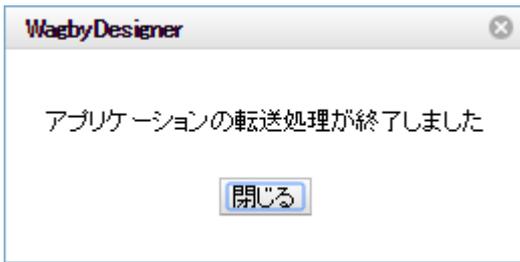


The screenshot shows the Wagby web interface with the following elements:

- Navigation menu: モデル, メニュー, 環境, ビルド, 運用, ログオフ
- Sub-navigation: リポジトリ, アカウント, クラウド
- Application section: アプリケーション, クラウド
- Server status: サーバ, クラウドサーバ上のアプリケーションの起動・停止を行ないます。 Buttons: 停止, 再起動, ログオン画面を開く
- Application status: アプリケーション, ビルドしたアプリケーションの転送・入替を行ないます。 Buttons: **クラウドに転送** (highlighted),  転送後に入替, アプリケーションの入替, 1つ前のアプリケーションに戻す
- Environment settings: 環境設定, クラウドの環境設定を行ないます。
- Form fields:
  - サーバ: ホスト名 (XXXXXXXX.fastwagbycloud.com), アクセスキー (XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX)
  - ライセンス管理システム: アカウント (wagbycloud\_XXXXX\_XXX), パスワード (\*\*\*\*\*), ライセンスID (1234)
  - プロキシサーバ: HTTPプロキシ, ポート
- Bottom button: 接続確認

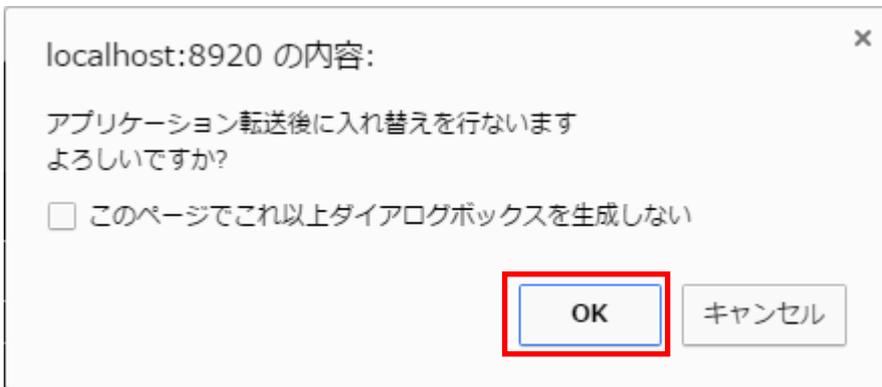
### 【転送後に入替】にチェックを入れない場合

【転送後に入替】にチェックを入れない状態で【クラウドに転送】を実行すると確認のダイアログボックスは立ち上がりず、そのまま転送処理が行われてから完了のダイアログボックスが立ち上がります。

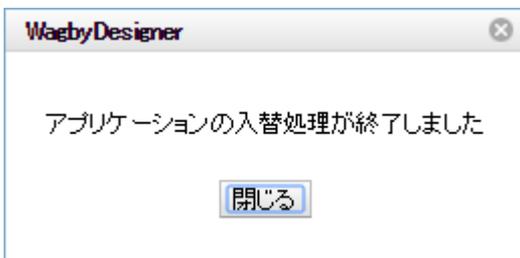


### 【転送後に入替】にチェックを入れた場合

【転送後に入替】にチェックを入れた状態で【クラウドに転送】を実行すると確認のダイアログボックスが立ち上がるので【OK】ボタンを押します。



しばらくしてから完了すると以下のようなダイアログボックスが立ち上がります。



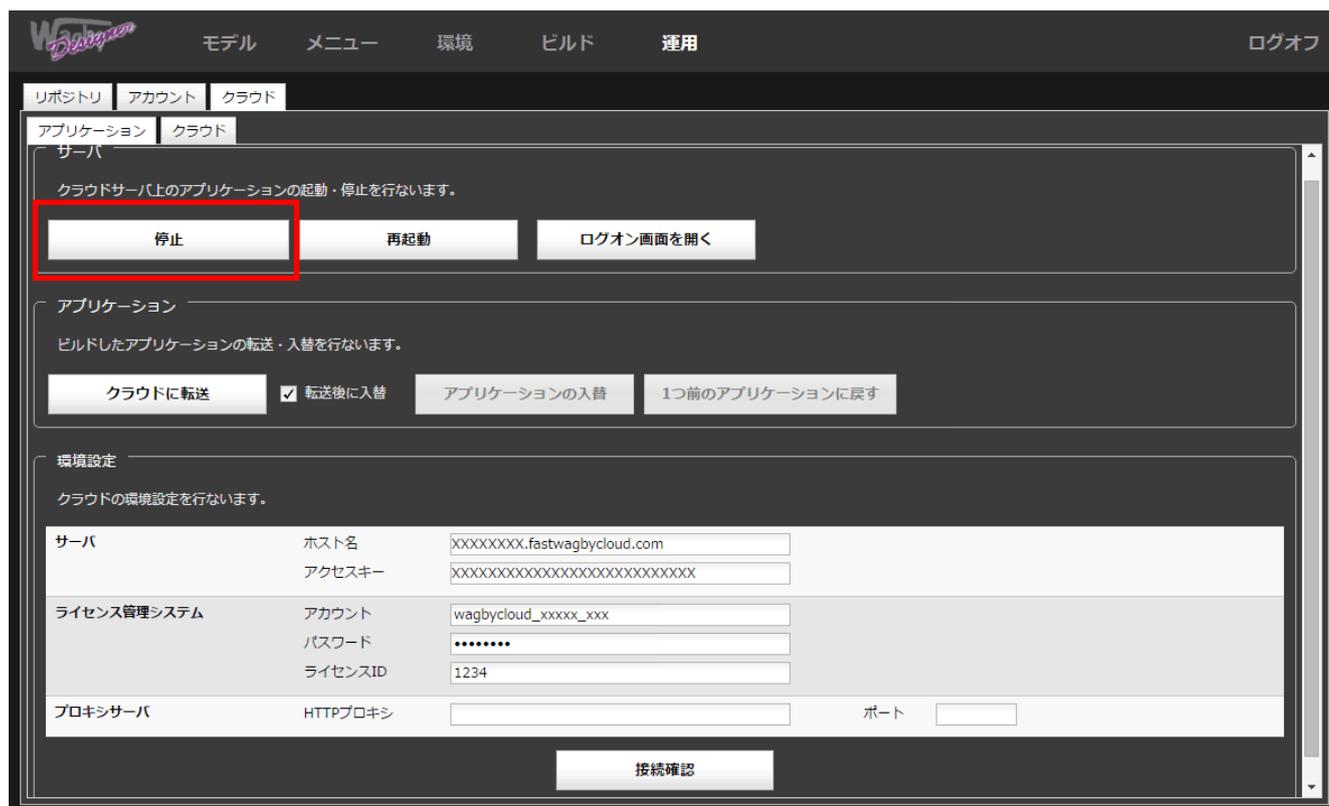
### 3.2. 【起動】 / 【停止】

このボタンは Wagby クラウドサーバにある Wagby アプリケーションを起動及び停止させることができます。Wagby クラウドサーバにある Wagby アプリケーションが停止状態だと【起動】ボタン、起動状態だと【停止】ボタンとなります。

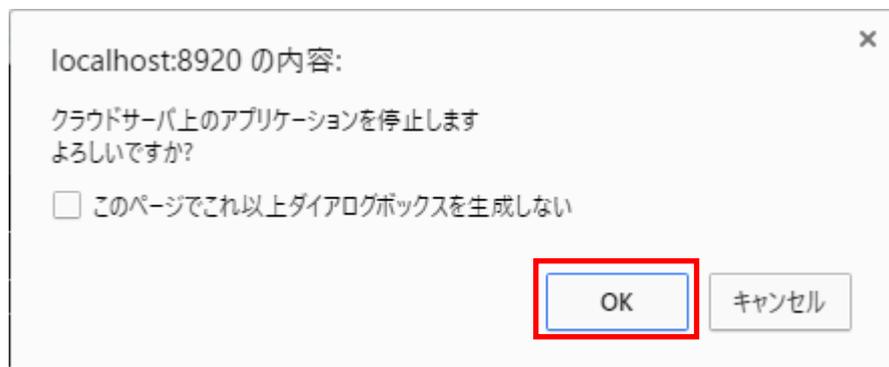
【アプリケーションの入替】や【1つ前のアプリケーションに戻す】ボタンを使用する場合は【停止】ボタンを押して Wagby アプリケーションを停止状態にして下さい。

#### 【注意】

運用中の Wagby アプリケーションを停止させるとその間使用できなくなるのでご注意ください。



Wagby アプリケーションが起動時に【停止】ボタンを押すと、本当に停止するかの確認ダイアログボックスが立ち上がるので問題無ければ【OK】ボタンを押します。



### 3.2.1. 【アプリケーションの入替】

Wagby クラウドサーバにある Wagby アプリケーションが停止状態だと押せるようになるボタンです。

【転送後に入替】にチェックを入れずに【クラウドに転送】を実行した場合はこのボタンで入替を行うことができます。

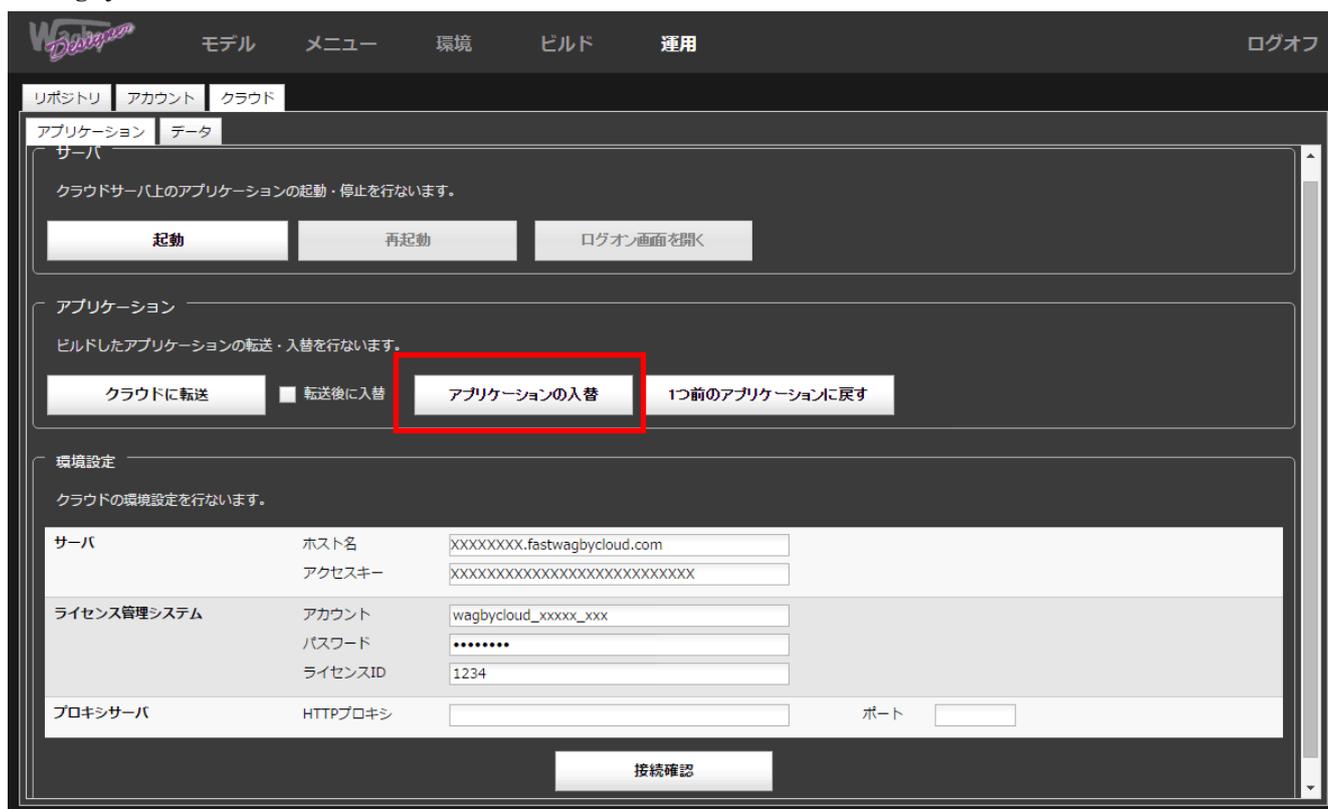
#### 【注意】

【アプリケーションの入替】を実行するとデータベースが初期化されます。データを消したくない場合は事前にエクスポートをしてデータを退避させておいてから、【アプリケーションの入替】後にインポートし直して下さい。

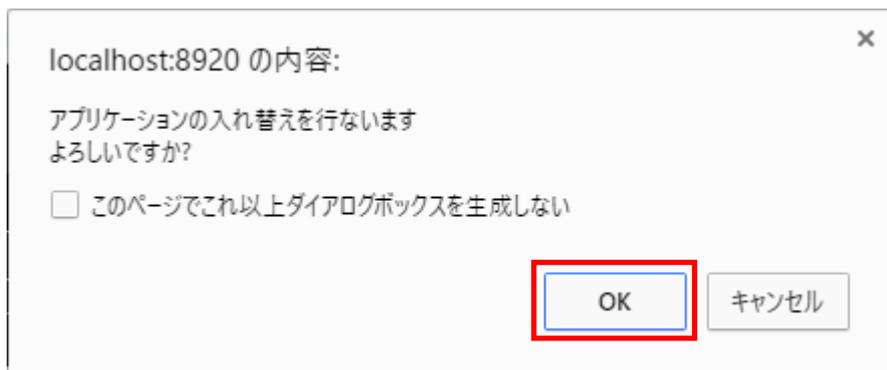
入替を実行すると以下のような動作をします。

(この動作は【転送後に入替】にチェックを入れて【クラウドに転送】をしても同様です。)

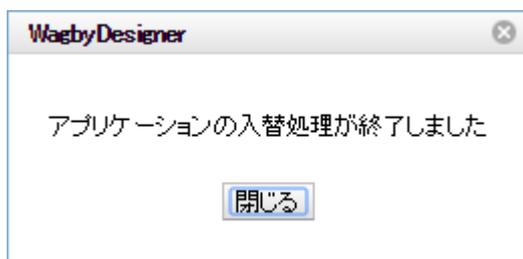
- 1.その時点でのエクスポートファイルを作成し、入替前の Wagby アプリケーション及び、アップロードファイル (添付ファイル) のバックアップを行う。(バックアップは1世代前のみ)
- 2.【クラウドに転送】で転送しておいた新しい Wagby アプリケーション (wagbyapp.zip) を展開して、入替前の Wagby アプリケーションと置き換える。
- 3.データベースを再設定及び初期化をする。
- 4.JDBC ドライバの複製や httpd、メモリなど各種設定を行う。
- 5.Wagby アプリケーションを起動する。



【アプリケーションの入替】ボタンを押すと確認のダイアログボックスが立ち上がるので【OK】ボタンを押します。



しばらくして完了のダイアログボックスが立ち上がります。



### 3.2.2. 【1つ前のアプリケーションに戻す】

Wagby クラウドサーバにある Wagby アプリケーションが停止状態だと押せるようになるボタンです。Wagby アプリケーションを入替によってバックアップしておいた 1 世代前の状態に戻します。戻す際に一緒にバックアップしておいたアップロードファイル（添付ファイル）とエクスポートファイルも戻すので最後に入替をした直前の状態まで戻すことができます。

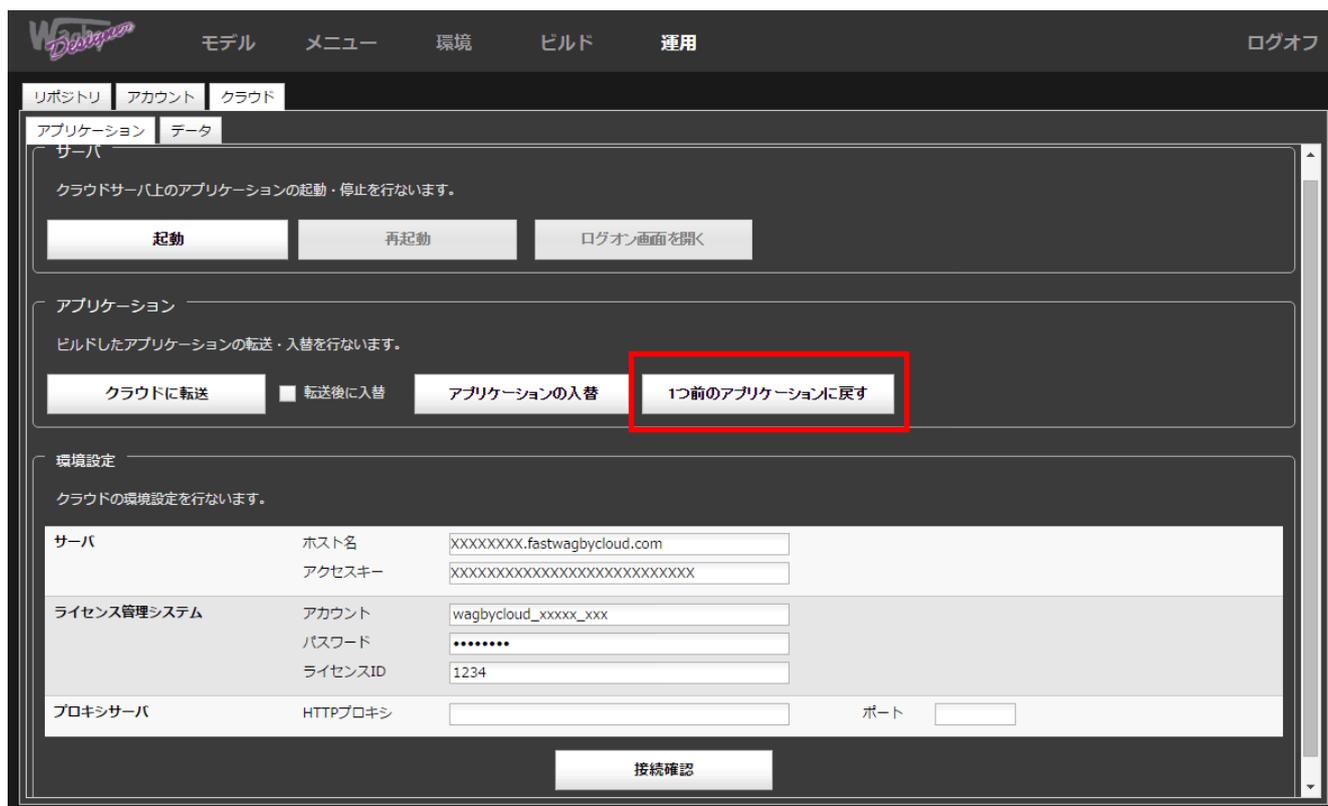
ただしバックアップは 1 世代分までしか保存しないため、何度【1つ前のアプリケーションに戻す】を実行しても 1 世代より前に戻すことはできません。

#### 【注意】

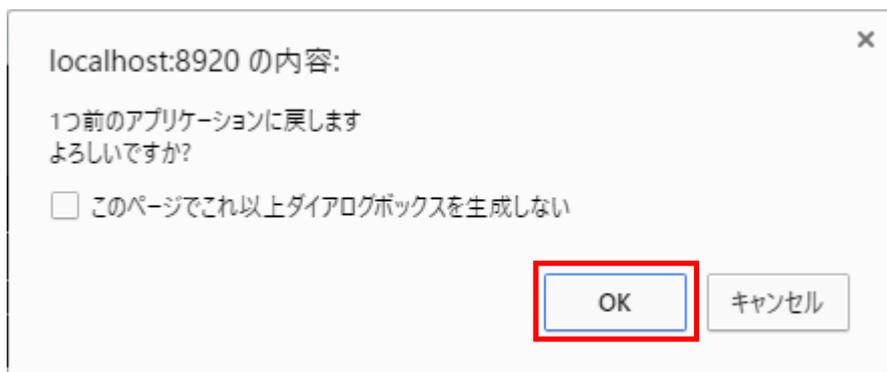
【1つ前のアプリケーションに戻す】を実行すると各データも【クラウドに転送】前に戻ってしまうので、その前にエクスポートファイルとアップロードファイル（添付ファイル）のバックアップをお勧めします。また【転送後に入替】にチェックを入れずに【クラウドに転送】をした後【アプリケーションの入替】をせずに【1つ前のアプリケーションに戻す】を実行しないで下さい。

【1つ前のアプリケーションに戻す】を実行すると入替時にバックアップしておいた Wagby アプリケーションへ状態に戻しますが、その際に現状の Wagby アプリケーションはバックアップされません。

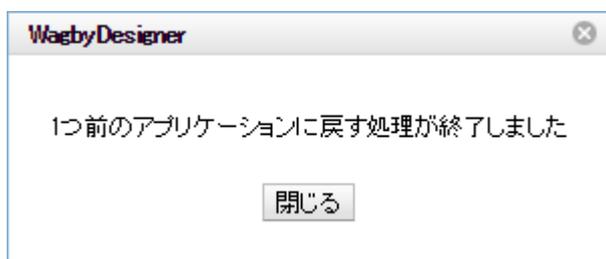
【アプリケーションの入替】は Wagby クラウドサーバに上がっている「wagbyapp.zip」を展開する仕様のため【転送後に入替】にチェックを入れずに【クラウドに転送】をした後【アプリケーションの入替】をせずに【1つ前のアプリケーションに戻す】を実行すると Wagby クラウドサーバには最新と 1 世代前の wagbyapp しか残らず、稼働中のバージョンの Wagby アプリケーションが消失してしまいます。



【1 つ前のアプリケーションに戻す】 ボタンを押すと確認のダイアログボックスが立ち上がるので【OK】 ボタンを押します。



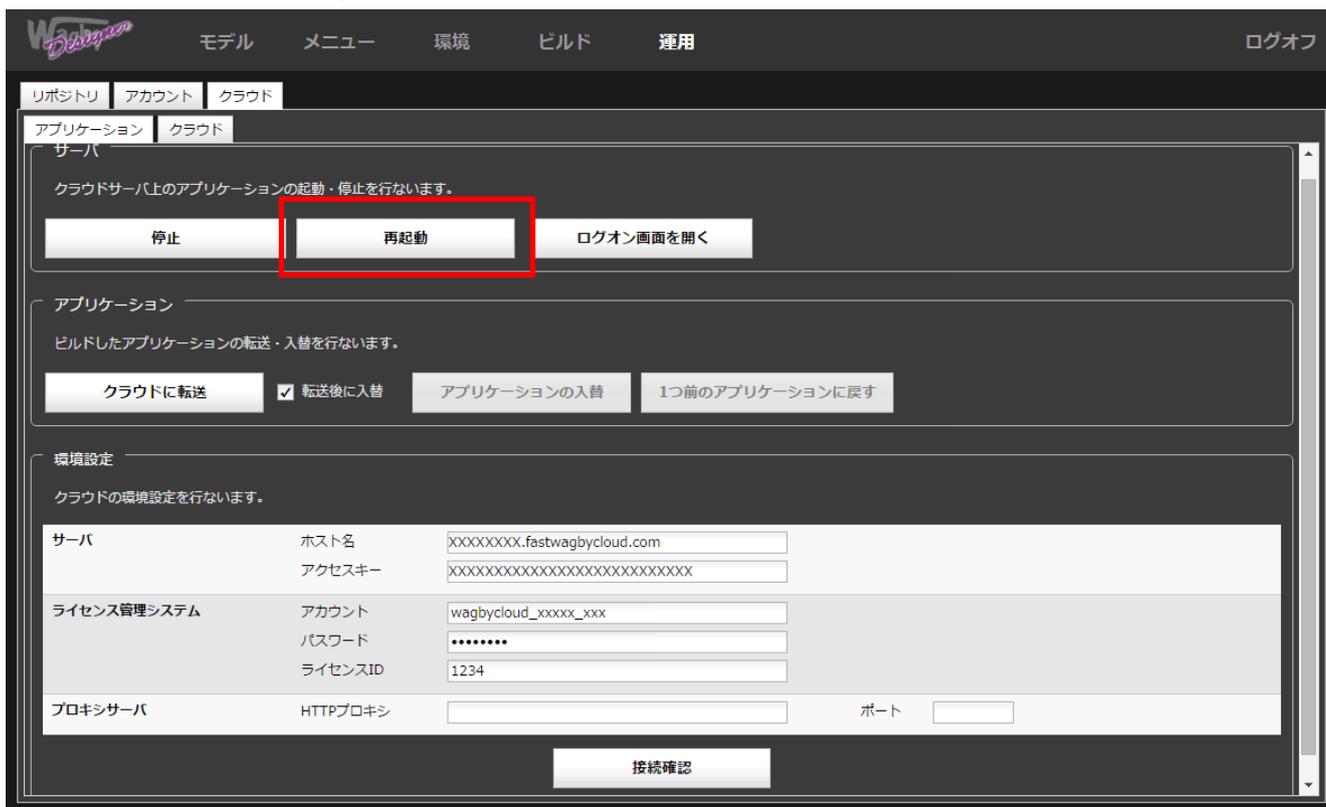
しばらくして完了のダイアログボックスが立ち上がります。



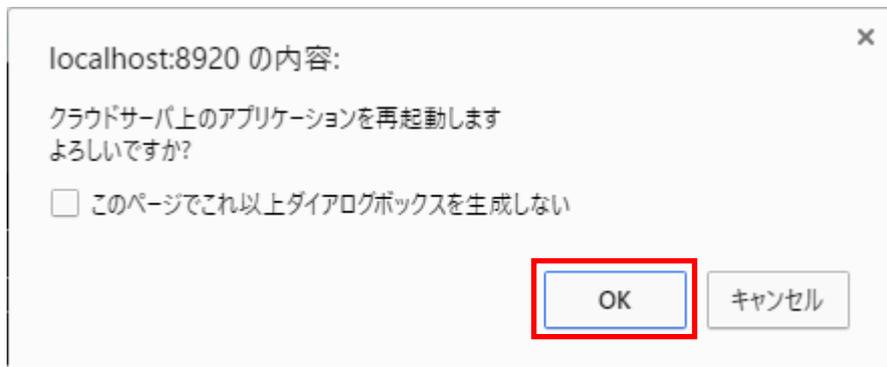
### 3.3. 【再起動】

このボタンを押すと Wagby アプリケーションのデーモンを再起動します。

再起動が完了するまで Wagby アプリケーションを使用することができませんのでご注意ください。



【再起動】ボタンを押すと確認のダイアログボックスが立ち上がるので【OK】ボタンを押します。

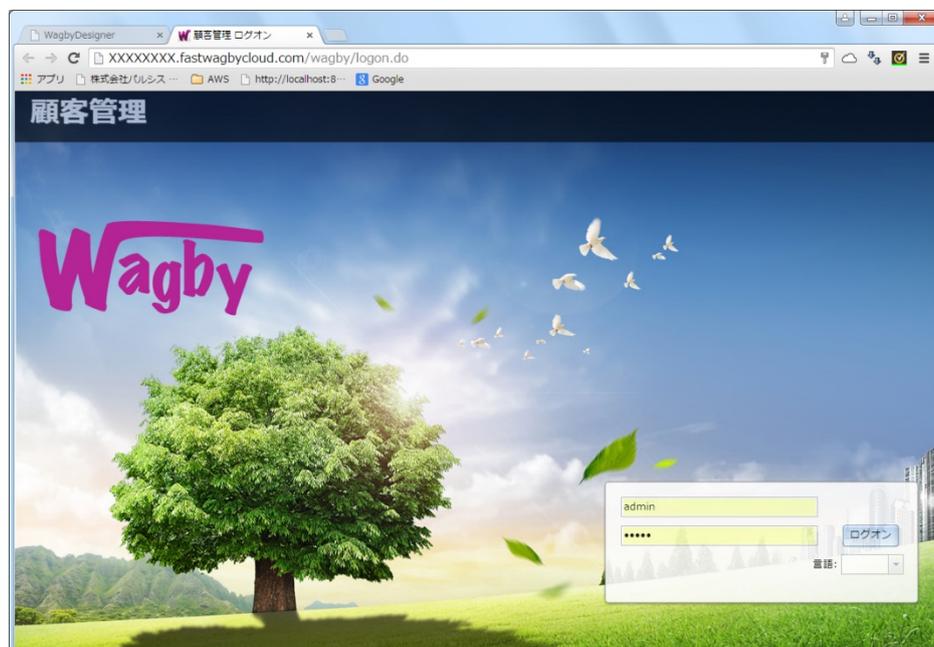
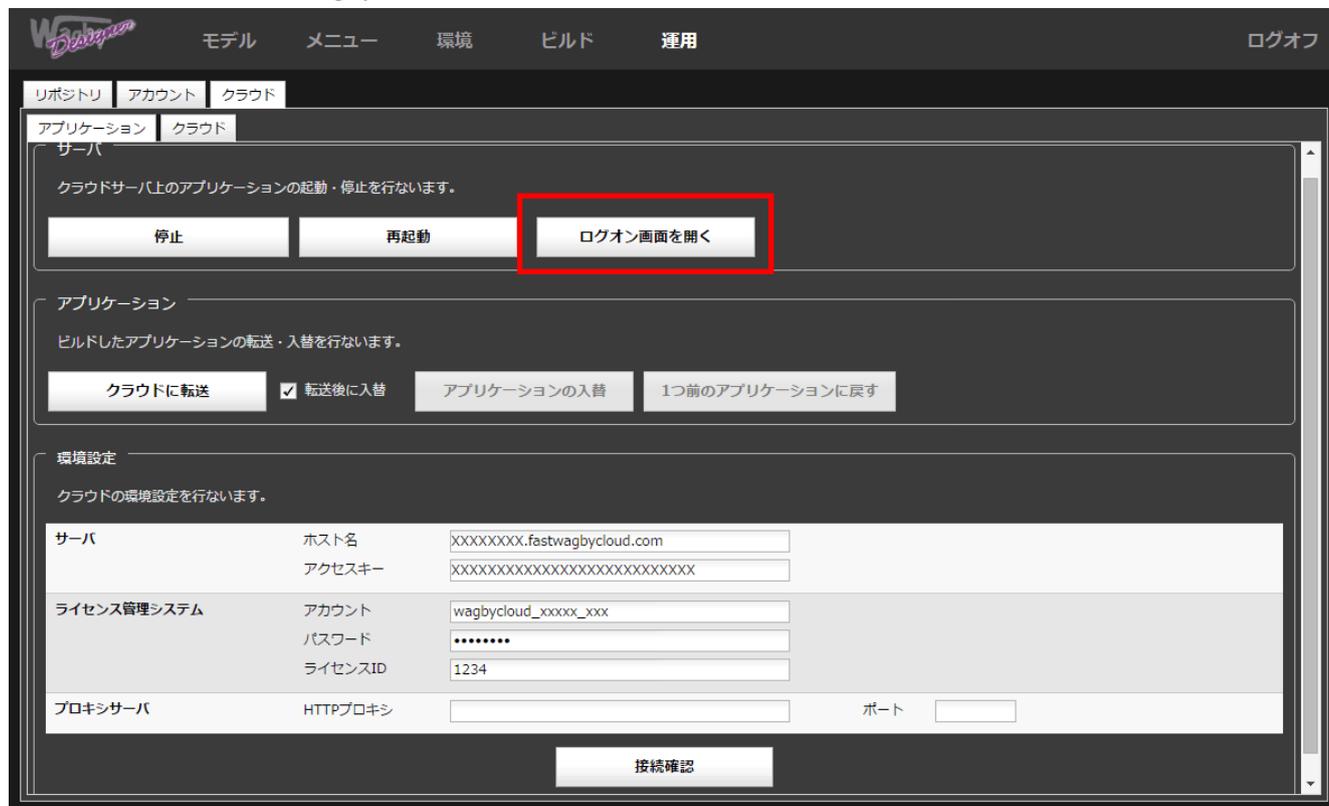


再起動が完了しても完了を知らせるダイアログボックスは立ち上がりませんのでご注意ください。

### 3.4. 【ログイン画面を開く】

このボタンを押すと Wagby クラウドに上がっている Wagby アプリケーションのログイン画面を表示します。

プロジェクト識別子のディレクトリ名を含めた URL が表示されるので単に Wagby アプリケーションにログインする以外にも、Wagby アプリケーションの URL を確認することもできます。



## 4. データファイル进行操作

この章では WagbyDesigner を使い開発環境と Wagby クラウドサーバ間でエクスポートデータや Wagby アプリケーションでアップロードファイル（添付ファイル）をやり取りする方法を説明します。

WagbyDesigner は Wagby クラウドサーバのエクスポートファイル作成以外にも、開発環境と Wagby クラウドサーバの間でエクスポートファイルやアップロードファイルをそれぞれアップロードやダウンロードが可能です。お互いの環境を一方に複製する際に使用できます。

WagbyDesigner から【運用】→【クラウド】→【クラウド】（旧バージョンの WagbyDesigner では【データ】）を選択してデータを操作する画面に遷移します。

### 4.1. Wagby クラウドサーバ上のエクスポートファイル进行操作

各ボタンは以下のような動作をします。

①	エクスポート	Wagby クラウドサーバ上の Wagby アプリケーションでエクスポートを実行する。 (クラウド転送した Wagby アプリケーションで【インポートとエクスポート】から【すべて選択する】を選んでエクスポートを実行したのと同様です) この操作でエクスポートした場合 jfcmodel、jfcmodel4dm 等の定義モデルの確認、データメンテナンスに表示されるデータも含まれるがインポート時に影響はない。 作成されたエクスポートファイルは一覧に「data_YYYYMMDDhhmmssbackup.zip」形式で追加される。
②	ダウンロード	エクスポートファイル一覧で選択しているエクスポートファイルを開発環境にダウンロードする。
③	削除	エクスポートファイル一覧で選択しているエクスポートファイルを Wagby クラウドサーバ上から削除する。
④	エクスポートファイル一覧	現時点で Wagby クラウドサーバ上にあるエクスポートファイルの一覧 この中から操作するファイルを選択することができる。

① エクスポート

② ダウンロード

③ 削除

④ エクスポートファイル一覧

エクスポートファイル名	サイズ(B)	更新日時
data_20160303192412backup.zip	78341	2016-03-03 19:24:29
data_20160304133122backup.zip	78341	2016-03-04 13:31:40
data_20160304133552backup.zip	78341	2016-03-04 13:36:10
data_20160307104632backup.zip	78413	2016-03-07 10:46:51
data_20160421133433backup.zip	78413	2016-04-22 15:44:57
data_20160422161216.zip	53948	2016-04-22 16:12:18
data_20160422162622backup.zip	79032	2016-04-22 16:26:41

## 4.2. Wagby クラウドサーバへエクスポートファイルをアップロード

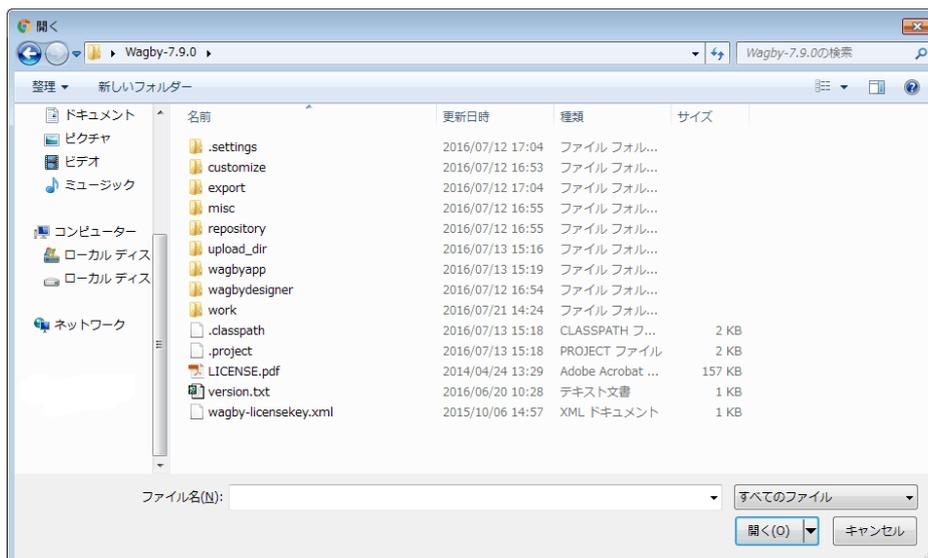
開発環境にあるエクスポートファイルを Wagby クラウドサーバへアップロードできます。

『4.4 アップロードファイルのアップロード』と合わせて使用すると、開発環境の状態をそのまま Wagby クラウドサーバへ複製することもできます。

エクスポートファイルの【ファイル選択】ボタンをクリックして、Wagby クラウドサーバへアップロードするファイルを選択します。



アップロードできるファイルは先頭が「data\_」で始まる zip 形式のファイルに限られます。



ファイルを選択すると、ボタンの下にアップロードするファイルの情報が表示されます。  
これでよければ【エクスポートファイルをアップロード】ボタンを押します。

The screenshot shows the WagbyDesigner web interface. At the top, there are navigation tabs: モデル, メニュー, 環境, ビルド, 運用, and ログオフ. Below these are sub-tabs: リポジトリ, アカウント, クラウド. The main content area is titled 'アプリケーション' and 'クラウド'. It contains a message: 'エクスポートの実行、エクスポートファイルのダウンロード・削除を行いません。' and three buttons: 'エクスポート', 'ダウンロード', and '削除'. Below this is a table of export files:

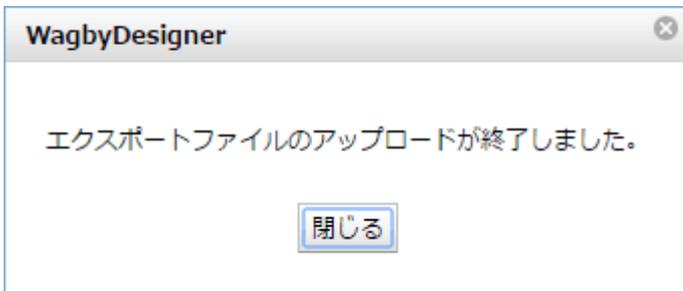
エクスポートファイル名	サイズ(B)	更新日時
data_20160208112052backup.zip	78003	2016-03-03 16:29:44
data_20160301142156backup.zip	78656	2016-03-03 16:29:44
data_20160301151207backup.zip	78340	2016-03-03 16:29:44
data_20160301151656backup.zip	78340	2016-03-03 16:29:44
data_20160301153657backup.zip	78341	2016-03-03 16:29:44
data_20160301174053backup.zip	78340	2016-03-03 16:29:44
data_20160212135721backup.zip	786	2016-03-03 16:29:44

Below the table is another message: 'エクスポートファイルのアップロードを行いません。' and two buttons: 'ファイル選択' and 'エクスポートファイルをアップロード'. Below these buttons is a table showing the selected file for upload:

#	Type	File Name	Size
1	ZIP	data_20160425132132backup.zip	76.6 kb

At the bottom, there is a section for 'アップロードファイル保存フォルダ' with a message: 'アップロードファイル保存フォルダのダウンロードを行いません。' and two buttons: 'フォルダファイルをダウンロード' and 'サーバ上にフォルダファイルを作成'.

アップデートが完了したら、その旨のダイアログボックスが表示されます。  
これで Wagby クラウドサーバへエクスポートファイルのアップロードが完了します。

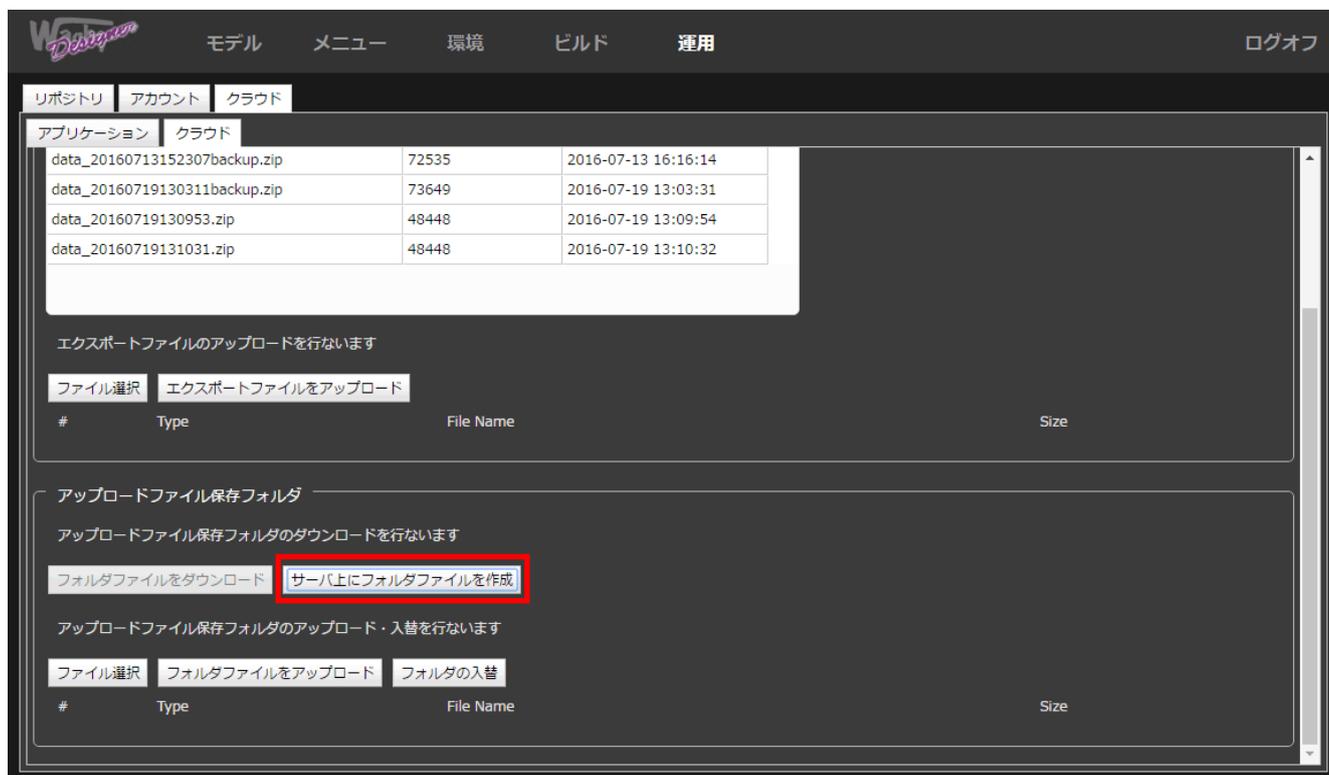


### 4.3. アップロードファイルのダウンロード

Wagby アプリケーションでデータ登録の際に添付したファイル（アップロードファイル）をまとめてダウンロードできます。

Wagby クラウドサーバのアップロードファイルのバックアップをしたり、エクスポートファイルのダウンロードと合わせて使用すると、Wagby クラウドサーバの状態をそのまま開発環境へ複製することも可能です。

【サーバ上にフォルダファイルを作成】 ボタンをクリックすると、Wagby クラウドサーバにある添付ファイルをまとめて zip 形式で圧縮したファイルがサーバ上に作成されます。



The screenshot shows the WagbyDesigner web interface. At the top, there are navigation tabs: モデル, メニュー, 環境, ビルド, 運用, and ログオフ. Below these are sub-tabs: リポジトリ, アカウント, and クラウド. The 'クラウド' tab is active, showing a table of uploaded files:

アプリケーション	クラウド	
data_20160713152307backup.zip	72535	2016-07-13 16:16:14
data_20160719130311backup.zip	73649	2016-07-19 13:03:31
data_20160719130953.zip	48448	2016-07-19 13:09:54
data_20160719131031.zip	48448	2016-07-19 13:10:32

Below the table, there are buttons for 'ファイル選択' and 'エクスポートファイルをアップロード'. A section titled 'アップロードファイル保存フォルダ' contains a message 'アップロードファイル保存フォルダのダウンロードを行いません' and buttons for 'フォルダファイルをダウンロード' and 'サーバ上にフォルダファイルを作成' (highlighted with a red box). Below this, there are buttons for 'ファイル選択', 'フォルダファイルをアップロード', and 'フォルダの入替'.

圧縮ファイル作成が完了するとダイアログボックスが立ち上がります。



圧縮保存が完了すると【フォルダファイルをダウンロード】ボタンのグレイ反転が解除されて押せるようになります。

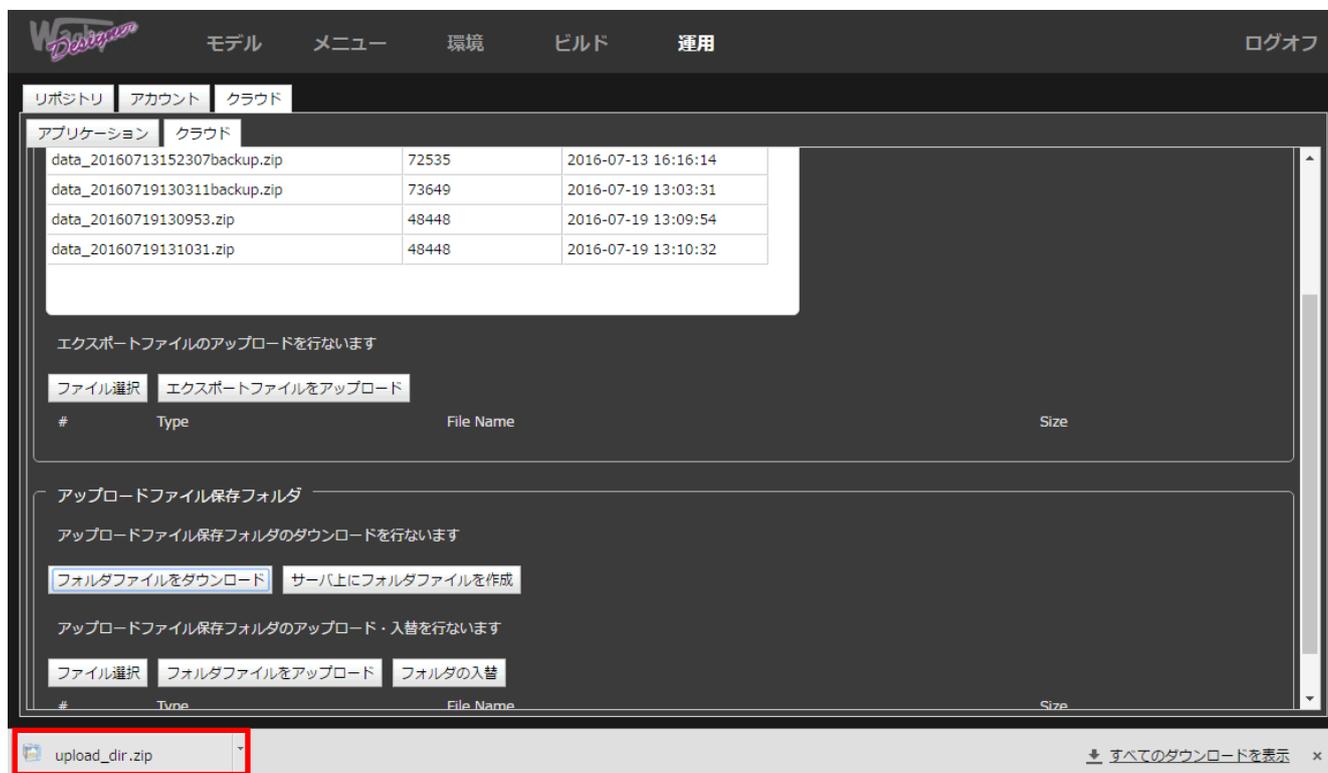
今度はこの【フォルダファイルをダウンロード】ボタンを押すとサーバ上に圧縮して作成されたアップロードファイルをダウンロードすることができます。



The screenshot shows the WebStation interface with the 'Upload File Save Folder' section. The 'Folder File Download' button is highlighted with a red box. The interface includes a table of backup files and various action buttons.

#	Type	File Name	Size

後は通常のダウンロードと同じです。



The screenshot shows the WebStation interface with the 'Upload File Save Folder' section. The 'Folder File Download' button is highlighted with a red box. The interface includes a table of backup files and various action buttons. At the bottom, the 'upload\_dir.zip' file is highlighted in the download list.

#	Type	File Name	Size

#### 4.4. アップロードファイルのアップロード

開発環境の Wagby アプリケーションでデータ登録の際に添付したファイル（アップロードファイル）を Wagby クラウドサーバへアップロードすることができます。

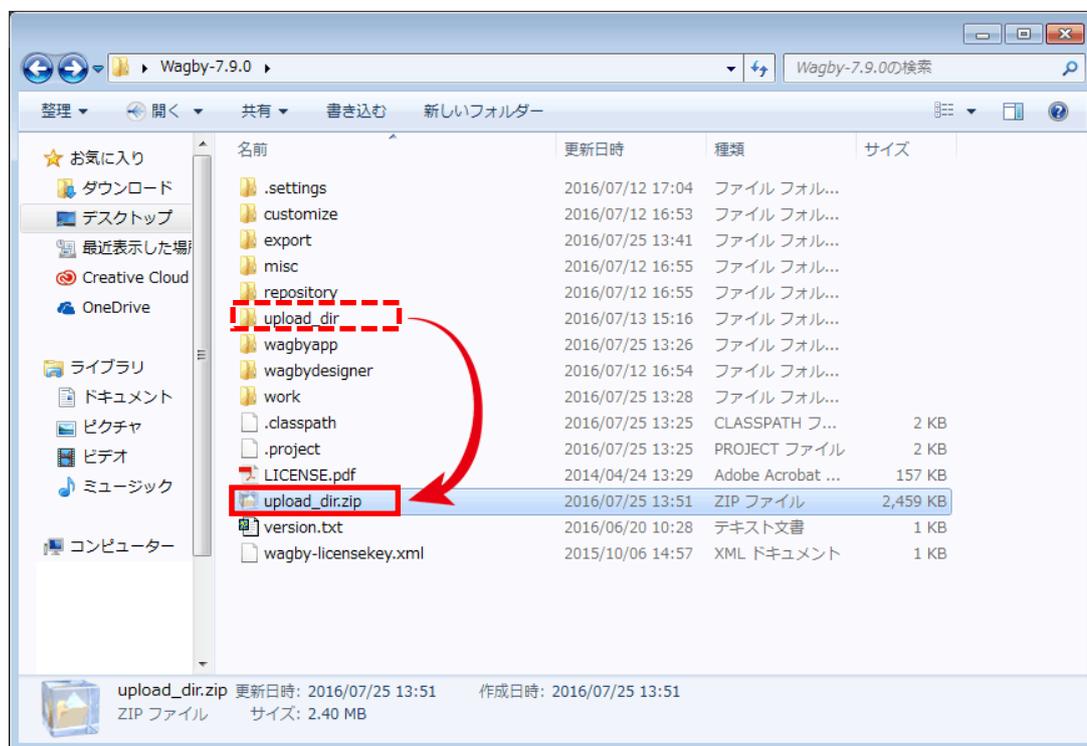
『4.2 Wagby クラウドサーバへエクスポートファイルをアップロード』と合わせて使用すると、開発環境の状態を Wagby クラウドサーバへ複製することもできます。

アップロードするファイルは zip 形式でファイル名が「upload\_dir.zip」である必要があります。

例えば開発環境のアップロードファイルを Wagby クラウドサーバへ複製するのであれば、Wagby ディレクトリの「upload\_dir」ディレクトリをそのままパスワード無しの zip 形式で圧縮して下さい。

#### 【注意】

アップロードファイルのアップロード後【フォルダの入替】を実行すると、それまで Wagby クラウドサーバにあったアップロードファイルが新しいものと置き換わって消失します。消失を避けたい場合はアップロードする前に『4.3 アップロードファイルのダウンロード』でバックアップしておくことをお勧めします。



アップロードファイル保存フォルダの【ファイル選択】ボタンをクリックして、Wagby クラウドサーバへアップロードする圧縮したアップロードファイルを選択します。

The screenshot shows the Wagby Designer web interface. At the top, there are navigation tabs: モデル, メニュー, 環境, ビルド, 運用, and ログオフ. Below these are sub-tabs: リポジトリ, アカウント, and クラウド. The main content area is divided into two sections. The top section, titled 'アプリケーション', shows a table of backup files:

File Name	Size	Timestamp
data_20160713152307backup.zip	72535	2016-07-13 16:16:14
data_20160719130311backup.zip	73649	2016-07-19 13:03:31
data_20160719130953.zip	48448	2016-07-19 13:09:54
data_20160719131031.zip	48448	2016-07-19 13:10:32

Below this table are buttons for 'ファイル選択' and 'エクスポートファイルをアップロード'. The bottom section, titled 'アップロードファイル保存フォルダ', contains buttons for 'フォルダファイルをダウンロード', 'サーバ上にフォルダファイルを作成', and 'アップロードファイル保存フォルダのアップロード・入替を行います'. The 'ファイル選択' button is highlighted with a red box. Below these buttons is another table with columns for #, Type, File Name, and Size.

選択できるものは「upload\_dir.zip」という名前のファイルのみです。

The screenshot shows a Windows File Explorer window titled 'Wagby-7.9.0'. The address bar shows the path 'Wagby-7.9.0'. The left sidebar shows the navigation pane with 'ローカル ディス' selected. The main pane displays a list of files and folders:

名前	更新日時	種類	サイズ
.settings	2016/07/12 17:04	ファイル フォル...	
customize	2016/07/12 16:53	ファイル フォル...	
export	2016/07/12 17:04	ファイル フォル...	
misc	2016/07/12 16:55	ファイル フォル...	
repository	2016/07/12 16:55	ファイル フォル...	
upload_dir	2016/07/13 15:16	ファイル フォル...	
wagbyapp	2016/07/13 15:19	ファイル フォル...	
wagbydesigner	2016/07/12 16:54	ファイル フォル...	
work	2016/07/21 14:24	ファイル フォル...	
.classpath	2016/07/13 15:18	CLASSPATH フ...	2 KB
.project	2016/07/13 15:18	PROJECT ファイル	2 KB
LICENSE.pdf	2014/04/24 13:29	Adobe Acrobat ...	157 KB
version.txt	2016/06/20 10:28	テキスト文書	1 KB
wagby-licensekey.xml	2015/10/06 14:57	XML ドキュメント	1 KB

At the bottom, the 'ファイル名(N):' field is empty, and the file type is set to 'すべてのファイル'. Buttons for '開く(O)' and 'キャンセル' are visible.

ファイルを選択すると、ボタンの下にアップロードするファイルの情報が表示されます。  
これによれば【フォルダファイルをアップロード】ボタンを押します。

The screenshot shows the WagbyDesigner web interface. At the top, there are navigation tabs: モデル, メニュー, 環境, ビルド, 運用, and ログオフ. Below these are sub-tabs: リポジトリ, アカウント, クラウド. The main content area has two sub-tabs: アプリケーション and クラウド. A table lists files:

File Name	Size	Time
data_20160719130311backup.zip	73649	2016-07-19 13:03:31
data_20160719130953.zip	48448	2016-07-19 13:09:54
data_20160719131031.zip	48448	2016-07-19 13:10:32

Below the table, there are buttons for file management: エクスポートファイルのアップロードを行ないます, ファイル選択, エクスポートファイルをアップロード. A second table header is visible: #, Type, File Name, Size. Below this, there are more buttons: アップロードファイル保存フォルダ, アップロードファイル保存フォルダのダウンロードを行ないます, フォルダファイルをダウンロード, サーバ上にフォルダファイルを作成, アップロードファイル保存フォルダのアップロード・入替を行ないます, ファイル選択, フォルダファイルをアップロード (highlighted with a red box), フォルダの入替. At the bottom, a table shows the upload progress:

#	Type	File Name	Size
1	ZIP	upload_dir.zip	1.4 mb

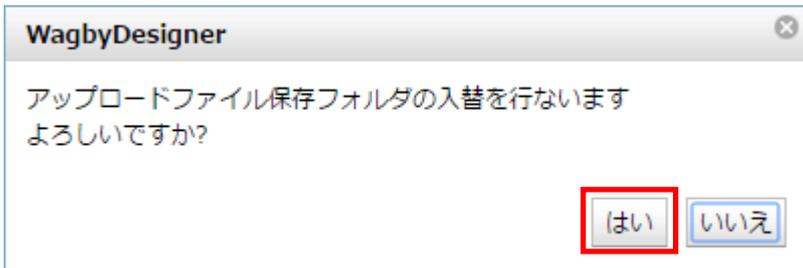
アップロードが完了するとダイアログボックスが立ち上がります。

The screenshot shows a dialog box titled "WagbyDesigner" with a close button (X) in the top right corner. The message inside the dialog box reads: "アップロードファイル保存フォルダのアップロードが終了しました". At the bottom center of the dialog box, there is a button labeled "閉じる".

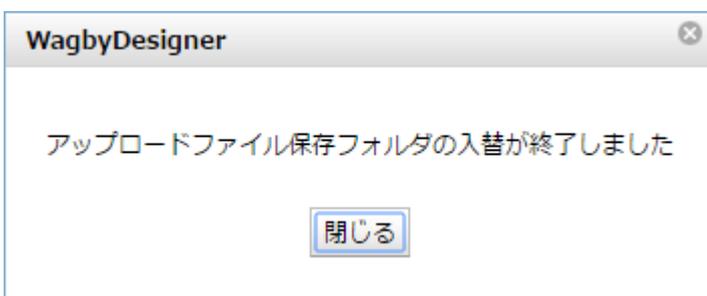
この状態だと「upload\_dir.zip」を Wagby クラウドサーバへアップロードしただけなので、アップロードしたファイルを実際に反映するために【フォルダの入替】ボタンをクリックします。

The screenshot shows the WagbyDesigner web interface. At the top, there are navigation tabs: リポジトリ, アカウント, クラウド. Below these, there are sub-tabs: アプリケーション, クラウド. A table lists data files with columns for file name, size, and timestamp. Below the table, there are buttons for 'ファイル選択' and 'エクスポートファイルをアップロード'. The 'アップロードファイル保存フォルダ' section contains buttons for 'フォルダファイルダウンロード', 'サーバ上にフォルダファイルを作成', 'フォルダファイルのダウンロード', and 'フォルダの入替'. The 'フォルダの入替' button is highlighted with a red box. Below this section, there are buttons for 'ファイル選択', 'フォルダファイルをアップロード', and 'フォルダの入替'.

本当に入替を実行するか確認するダイアログボックスが立ち上がるので【はい】ボタンをクリックします。



入替が完了するとダイアログボックスが立ち上がります。



## 5. サーバのステータス及びログを確認

Wagby クラウドサーバのステータスやログは AWS 上の CloudWatch という機能で確認することができます。

ここでは CloudWatch へのログインの方法やステータスやログを見る方法を説明します。

### 5.1. CloudWatch へサインイン

お客様情報の『CloudWatch ログイン情報』の『URL』へブラウザからアクセスして、【ユーザー名】、【パスワード】をそれぞれ入力して【サインイン】ボタンをクリックします。



amazon  
web services

アカウント:

ユーザー名:

パスワード:

MFA ユーザーは、次の画面でコードを入力してください。

[ルートアカウント認証情報を使用してサインイン](#)

サーバー管理が不要のコード実行  
**今すぐ無料で**  
AWS Lambda をお試しください

日本語 ▼

[利用規約](#) [プライバシーポリシー](#) © 1996-2016, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates.

画面右上の参照リージョン（参照するデータセンター）を【東京】に変更してから、アマゾンウェブサービスの【CloudWatch】をクリックして下さい。

※他の項目はアクセス権限がないので使用できません。

アマゾン ウェブ サービス

コンピューティング

- EC2 クラウド内の仮想サーバー
- EC2 Container Service Docker コンテナの実行と管理
- Elastic Beanstalk ウェブアプリの実行と管理
- Lambda イベント発生時にコードを実行

ストレージ & コンテンツ配信

- S3 スケーラブルなクラウドストレージ
- CloudFront グローバルなコンテンツ配信ネットワーク
- Elastic File System プレビュー EC2向け完全マネージド型ファイルシステム
- Glacier クラウド内のアーカイブストレージ
- Import/Export Snowball 大容量データの転送
- Storage Gateway ハイブリッドストレージの統合

データベース

- RDS マネージド型リレーショナルデータベースサービス
- DynamoDB マネージド NoSQL データベース
- ElastiCache インメモリキャッシュ
- Redshift 高速、シンプル、費用対効果の高いデータウェアハウス
- DMS プレビュー マネージドデータベースマイグレーションサービス

開発者用ツール

- CodeCommit プライベート Gitリポジトリ内のコードの保存
- CodeDeploy コードデプロイの自動化
- CodePipeline 継続的な配信を使用したソフトウェアのリリース
- 管理ツール
- CloudWatch リソースとアプリケーションのモニタリング**
- CloudFormation テンプレートによるリソースの作成と管理
- CloudTrail ユーザーアクティビティと API の使用状況のトラッキング
- Config リソースのイベントトリガーと変更のトラッキング
- OpsWorks Chefを用いたオペレーションの自動化
- Service Catalog 標準化された製品の作成と使用
- Trusted Advisor パフォーマンスとセキュリティの最適化

セキュリティ & アイデンティティ

- Identity & Access Management ユーザーアクセスと暗号化キーの管理
- Directory Service アクティブディレクトリのホストと管理
- Inspector プレビュー アプリケーションのセキュリティの分析
- WAF 悪意あるウェブトラフィックのフィルタリング
- Certificate Manager SSL/TLS の証明書のプロビジョニング、管理、およびデプロイ

IoT

- AWS IoT デバイスをクラウドに接続

モバイルサービス

- Mobile Hub ベータ モバイルアプリの構築、テスト、モニタリング
- Cognito ユーザー ID およびアプリケーションデータの同期
- Device Farm Cloud 上の実際のデバイスでの Android、Fire OS および iOS アプリのテスト
- Mobile Analytics アプリケーション分析の収集、表示、エクスポート
- SNS プッシュ通知サービス

アプリケーションサービス

- API Gateway API の構築、発行、および管理
- AppStream 仮想インスタンスのアプリケーションストリーミング
- CloudSearch マネージド型検索サービス
- Elastic Transcoder 使いやすいくラブルなメディア変換サービス
- SES エメール送受信サービス
- SQS メッセージキューサービス
- SWF アプリケーションコンポーネントを連携させるワークフローサービス

エンタープライズアプリケーション

- WorkSpaces

リソースグループ [詳細はこちら](#)

リソースグループは、1つ以上のタグを共有するリソースのコレクションです。お客様のアカウントにあるプロジェクト、アプリケーション、環境それぞれのグループを作成してください。

[グループの作成](#) [タグエディター](#)

その他のリソース

[はじめに](#)  
詳細はドキュメント、AWS についてさらに詳しくは [トレーニング](#) を参照してください。

[AWS Console モバイルアプリ](#)  
Amazon アプリストア、Google Play、または iTunes から入手可能な AWS コンソールモバイルアプリを使用して、出先でリソースを表示します。

[AWS Marketplace](#)  
ソフトウェアを検索して購入し、1-Click で起動し、時間単位で料金を支払えます。

[AWS re:Invent での新製品発表](#)  
次世代の AWS クラウドサービスを一挙にご紹介。 [最新情報を見る](#)

サービスの状態

すべてのサービスが正常に動作中です。

更新済み: Feb 01 2016 17:47:01 GMT+0900

[サービスの状態ダッシュボード](#)

サーバのステータスを確認する場合は【ダッシュボード】をクリックします。

サーバのログを確認する場合は【ログ】をクリックします。

The screenshot shows the AWS CloudWatch console. In the left-hand navigation menu, the 'ダッシュボード' (Dashboard) and 'ログ' (Logs) items are highlighted with red boxes and arrows. The main content area displays the 'サーバステータスの確認' (Check Server Status) section, which includes a warning message and a list of top 9 alarms. The alarms shown are:

- Virus Check (VirusCheckCount >= 1)
- http400Log Check (http400Count >= 10)
- WagbyCloud Server Running Ch... (StatusCheckFailed >= 1)
- Memory Utilization Check (MemoryUtilization >= 95)

## 5.2. サーバステータスの確認

右のメニューから【ダッシュボード】をクリックするとサーバステータスの確認ができます。

ダッシュボードではサーバの各ステータス一覧をグラフで表示しています。

大きく分けて以下の項目が存在します。

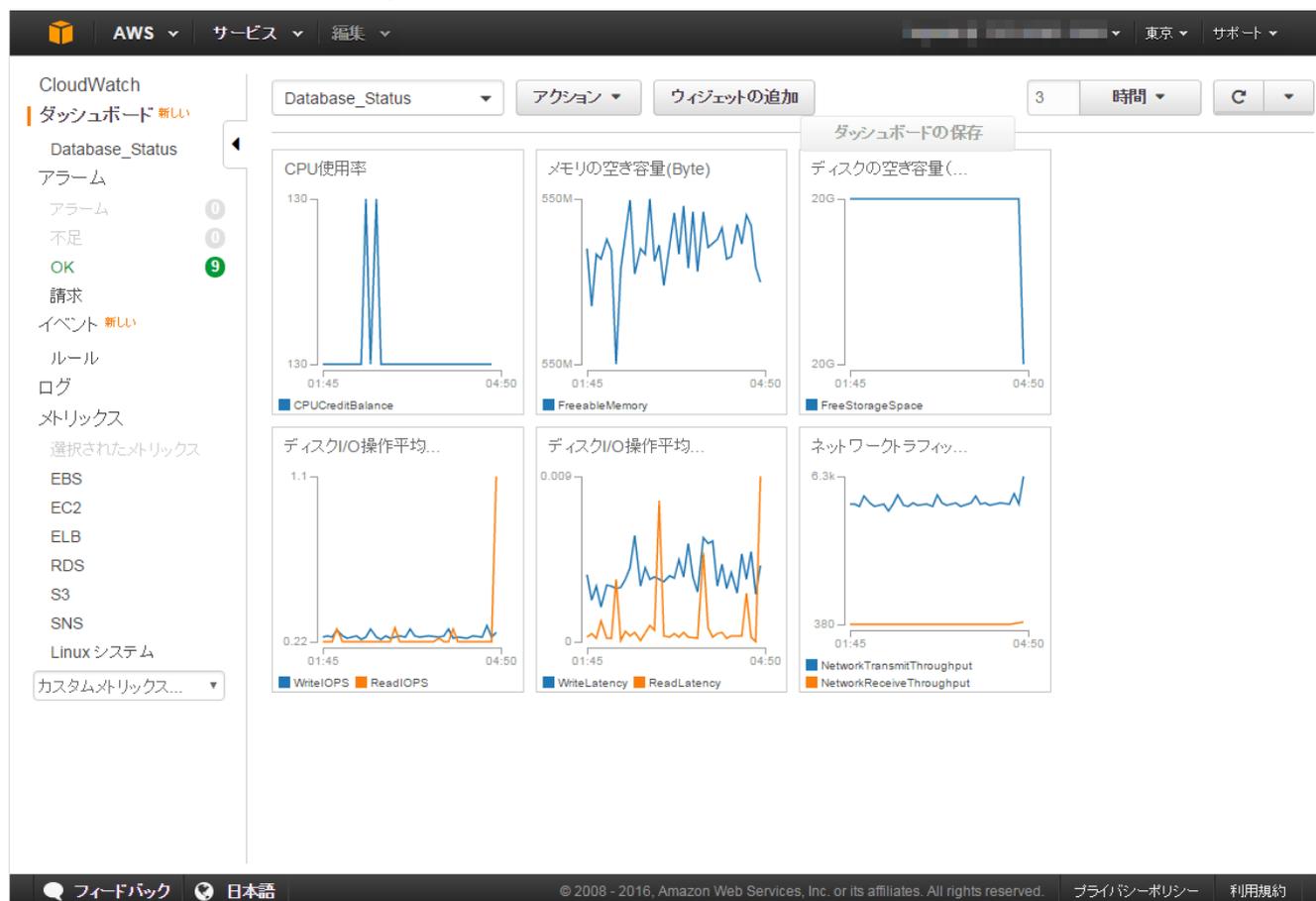
項目名	説明
Database_Status	データベースのステータス一覧
WagbyCloud_Server_Software	Wagby クラウドサーバのソフトウェアのステータス一覧
WagbyCloud_Server_Status	Wagby クラウドサーバのステータス一覧

これらのうち確認したい項目をクリックして下さい。

The screenshot shows the AWS CloudWatch console interface. On the left, the 'CloudWatch' navigation menu has 'ダッシュボード' (Dashboards) highlighted with a red box. The main content area displays a 'ダッシュボード' (Dashboards) section with a table of existing dashboards. The table has two columns: '名前' (Name) and '最終更新 (UTC)' (Last Updated (UTC)). Three dashboards are listed, each highlighted with a red box: 'Database\_Status' (updated 2016-02-01 08:29), 'WagbyCloud\_Server\_Software' (updated 2016-02-01 08:08), and 'WagbyCloud\_Server\_Status' (updated 2016-02-01 07:48). The right sidebar contains '追加情報' (Additional Information) with links for '入門ガイド' (Getting Started), 'ドキュメント' (Documentation), 'フォーラム' (Forum), and '問題の報告' (Report a Problem). The footer includes 'フィードバック' (Feedback), '日本語' (Japanese), copyright information, and 'プライバシーポリシー' (Privacy Policy) and '利用規約' (Terms of Use).

各項目ごとにそれぞれ該当するステータスがグラフ化されています。

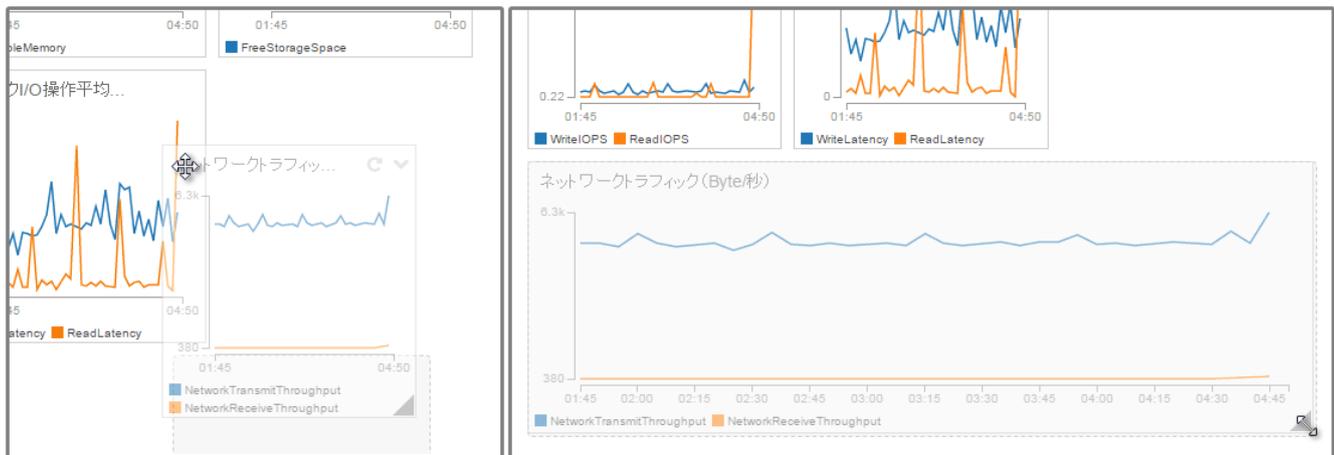
※ステータスの説明は後付の『8.1 グラフの詳細』をご参考下さい。



### 5.2.1. グラフの操作

グラフはドラッグ&ドロップや自由に伸ばすことが可能です。

(ただしグラフを見やすいようにカスタマイズしても現状は保存されませんのでご注意ください。)



グラフの左上端にポインタを持っていくとポインタが「移動」になるのでドラッグして移動できる。

グラフの右下端の三角部分にポインタを持っていくとポインタが「拡大/縮小」になるのでドラッグして縮めたり引き延ばす事ができる。

画面右上のプルダウンでグラフの幅を時間や日にち単位で変更することができます。

また『タイムゾーン』を変更して協定世界時の「UTC」か、日本標準時の「ローカル」を選択することができます。

3 ← 時間 →

時間範囲:

- 分 ▶
- 時間 ▶ ← 1
- 日 ▶ 2
- 期間: 3
- 自動 ▶ 6
- 8
- タイムゾーン: 12
- UTC ▶ ←

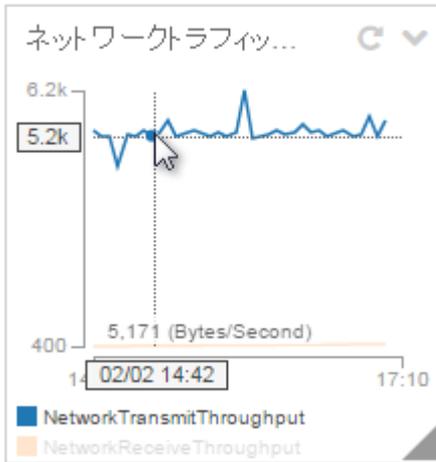
← 5

← 3

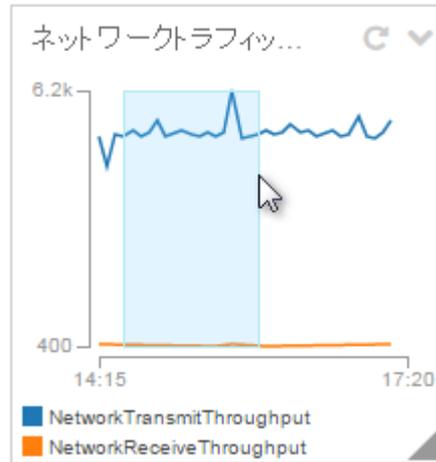
← 1

←

グラフにマウスカーソルを近づけると詳細な値を確認したり、グラフで任意の範囲をドラッグするとグラフの範囲を絞ることができます。



マウスカーソルを合わせて詳細を確認できる。



マウスをドラッグしてグラフの範囲を絞ることもできる。

### 5.3. サーバログを確認

右のメニューから【ログ】をクリックすると CloudWatch が Wagby クラウドサーバから吸い出しているログを確認することができます。

サーバログを確認するにはある程度 Linux 等の知識が必要になります。

ログは大きく分けて 3 つのグループに分かれています。

ロググループ名※	説明
[ユーザーID]-HttpdLogGroup-[グループ ID]	Apache が出力するロググループ
[ユーザーID]-CloudFormationStackMakeCloudWatchGroup-[スタック ID]-HttpdLogGroup-[グループ ID]	
[ユーザーID]-SystemLogGroup-[グループ ID]	OS システムが出力するロググループ
[ユーザーID]-CloudFormationStackMakeCloudWatchGroup-[スタック ID]-SystemLogGroup-[グループ ID]	
[ユーザーID]-WagbyLogGroup-[グループ ID]	Wagby アプリケーションが出力するロググループ
[ユーザーID]-CloudFormationStackMakeCloudWatchGroup-[スタック ID]-WagbyLogGroup-[グループ ID]	

※ロググループ名は作成された時期によって形式が異なります。

また、[スタック ID]と[グループ ID]は AWS から自動的に割り振られた ID なのでお客様には直接関係しません。

これらのうち見たいロググループをクリックします。

The screenshot shows the AWS CloudWatch console interface. The left sidebar contains navigation options like 'ダッシュボード', 'アラーム', 'イベント', and 'ログ'. The main area displays a list of log groups under the heading 'ロググループ'. A table lists three log groups, with the first one, 'WagbyCloud-HttpdLogGroup-16MED9JI73AET', highlighted by a red rectangular box. The table columns include the log group name, the next time an event will be lost after the period expires, the number of filters, and subscription status.

ロググループ	次の期間経過後にイベントを失効	メトリクスフィルタ	サブスクリプション
WagbyCloud-HttpdLogGroup-16MED9JI73AET	1か月 (30 日間)	4 フィルタ	なし
WagbyCloud-SystemLogGroup-1VNESGYHTPYTD	1か月 (30 日間)	2 フィルタ	なし
WagbyCloud-WagbyLogGroup-GPV6PXOUQ3EM	1か月 (30 日間)	0 フィルタ	なし

見たいログを一覧から選択します。

※ログの説明は後付の『8.2 ログの詳細』をご参考下さい。

The screenshot shows the AWS CloudWatch console interface. On the left is a navigation menu with options like 'ダッシュボード', 'アラーム', 'イベント', and 'ログ'. The main area displays a log group 'WagbyCloud-HttpdLogGroup-16...' with a table of log streams. Two log streams are highlighted with a red box:

ログストリーム	直前のイベント時刻
i-31426d94/etc/httpd/logs/wagbyapp_access_log	2016-02-04 18:51 UTC+9
i-31426d94/etc/httpd/logs/wagbyapp_error_log	2016-02-04 18:33 UTC+9

表示されているログは『フィルタ』で文字列から絞ることや、『日付/時刻』の時間で範囲を決めることができます。

The screenshot shows the AWS CloudWatch console interface with a detailed view of log events. The 'フィルタ' (Filter) field is highlighted with a red box, and the '日付/時刻' (Date/Time) field is also highlighted with a red box. The interface shows a list of log events with columns for instance ID, timestamp, and log message.

イベントデータ
pool-100-0-0-211.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:03:51 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-1-208.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:04:07 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-0-211.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:04:21 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-1-208.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:04:37 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-0-211.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:04:51 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-1-208.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:05:07 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-0-211.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:05:21 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-1-208.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:05:37 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-0-211.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:05:51 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-1-208.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:06:07 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-0-211.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:06:21 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-1-208.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:06:37 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-0-211.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:06:51 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"
pool-100-0-1-208.bstnma.fios.verizon.net [04/Feb/2016:19:07:07 +0900] "GET /health/index.html HTTP/1.1" 200 90 "-" "ELB-HealthChecker/1.0"

## 6. Wagby クラウド on AWS のデータベースへアクセス

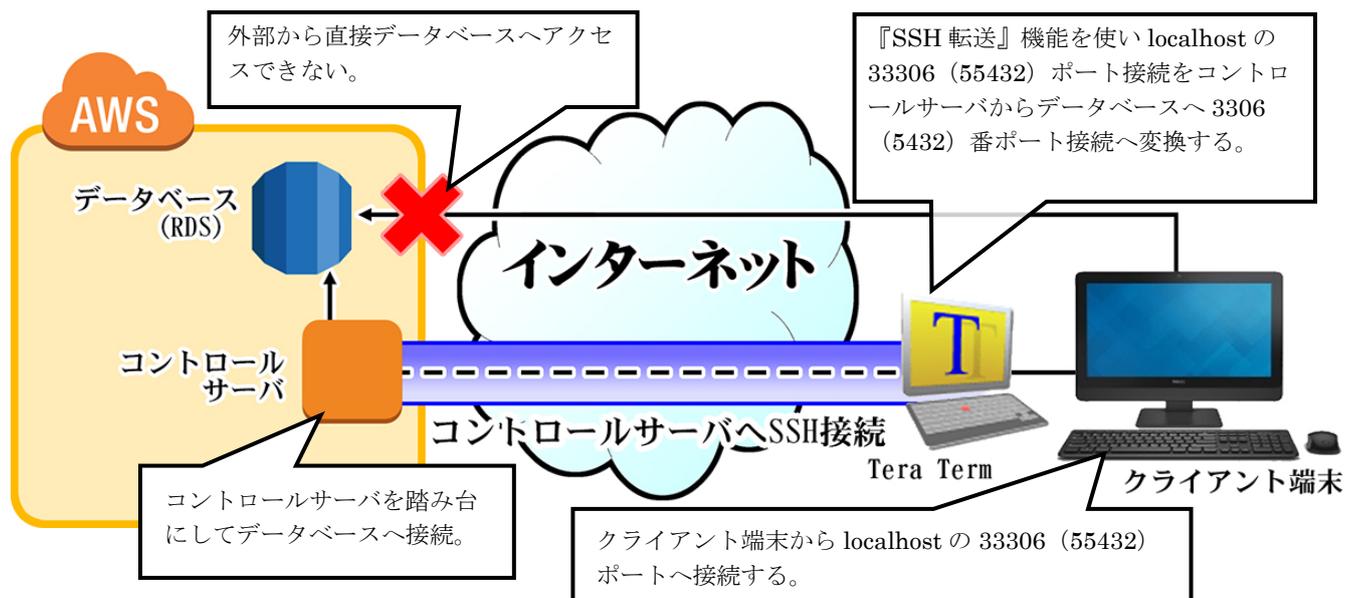
Wagby アプリケーションを運用するとデータベースに直接アクセスしたくなる場面に遭遇することがあります。

オンプロミスであれば難しいことはありませんが、クラウド上にあるとなかなかそうはいきません。

Wagby クラウド on AWS ではセキュリティ上、外部から直接データベースへアクセスできないように設定されています。

その代わりにユーザーが直接アクセスできるコントロールサーバをご用意しており、このサーバを経由すればデータベースへアクセスすることができます。

そのために Tera Term の『SSH 転送』(ポートフォワード) 機能を使用する必要があります。



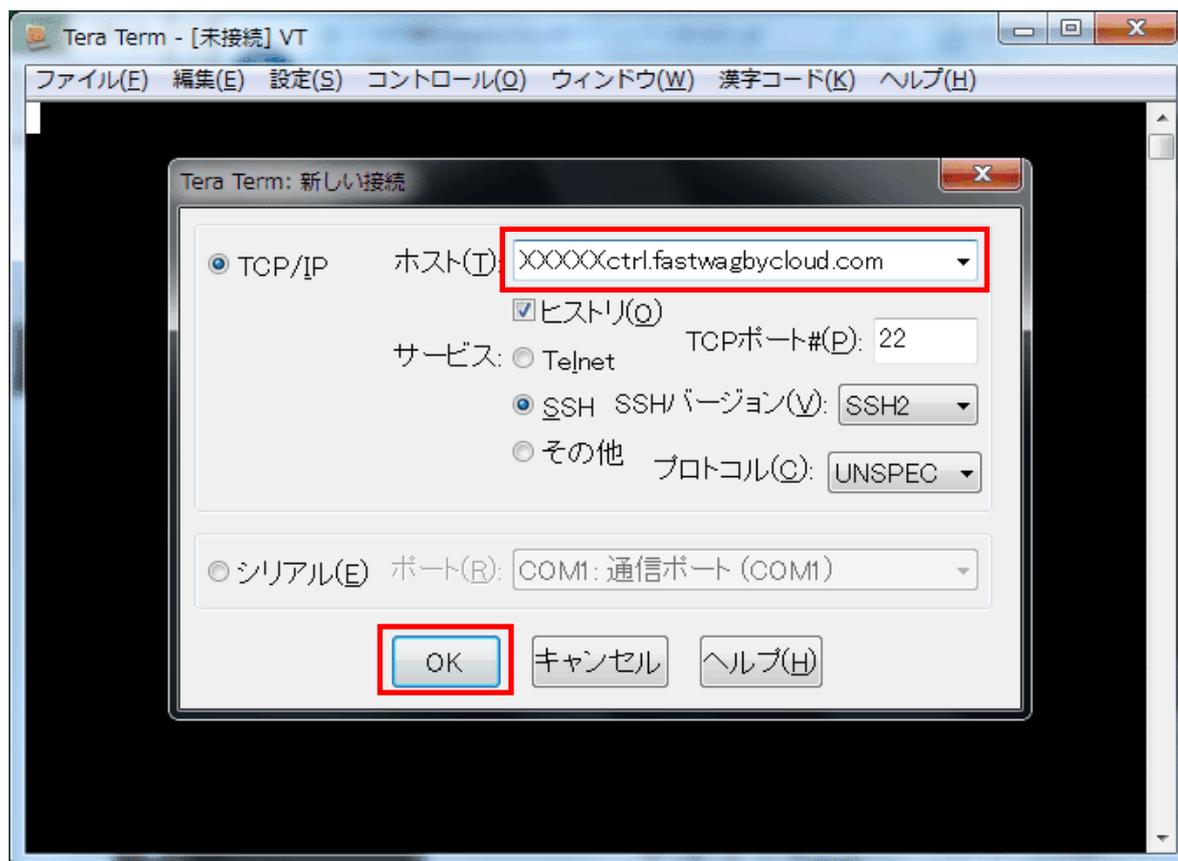
必要ソフト	Tera Term
	pgAdmin III (PostgreSQL) や MySQL Workbench (MySQL) などの DB 管理ツール

Tera Term をまだインストールをしていない場合は必ずインストールして下さい。

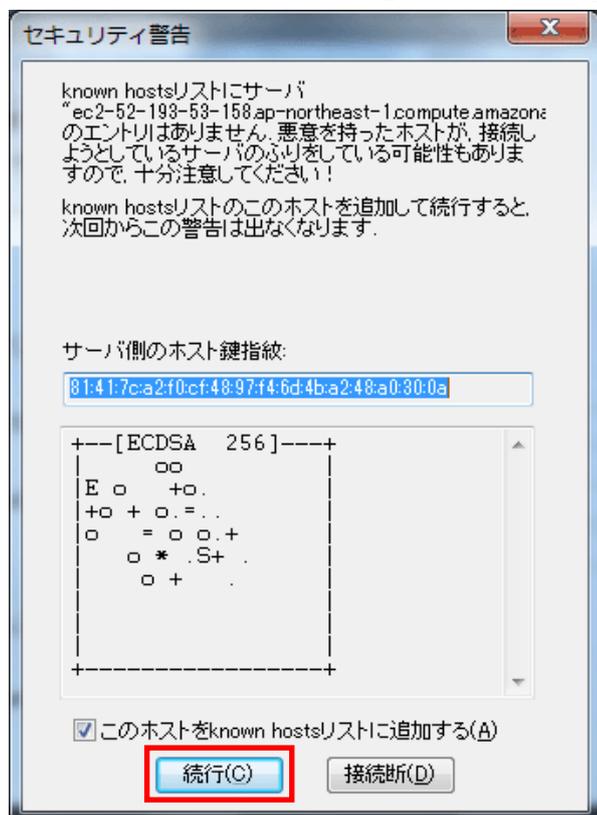
データベースに接続するためのソフトウェアは Wagby クラウドで使用しているデータベースに合わせたものをご使用下さい。

## 6.1. コントロールサーバへ接続

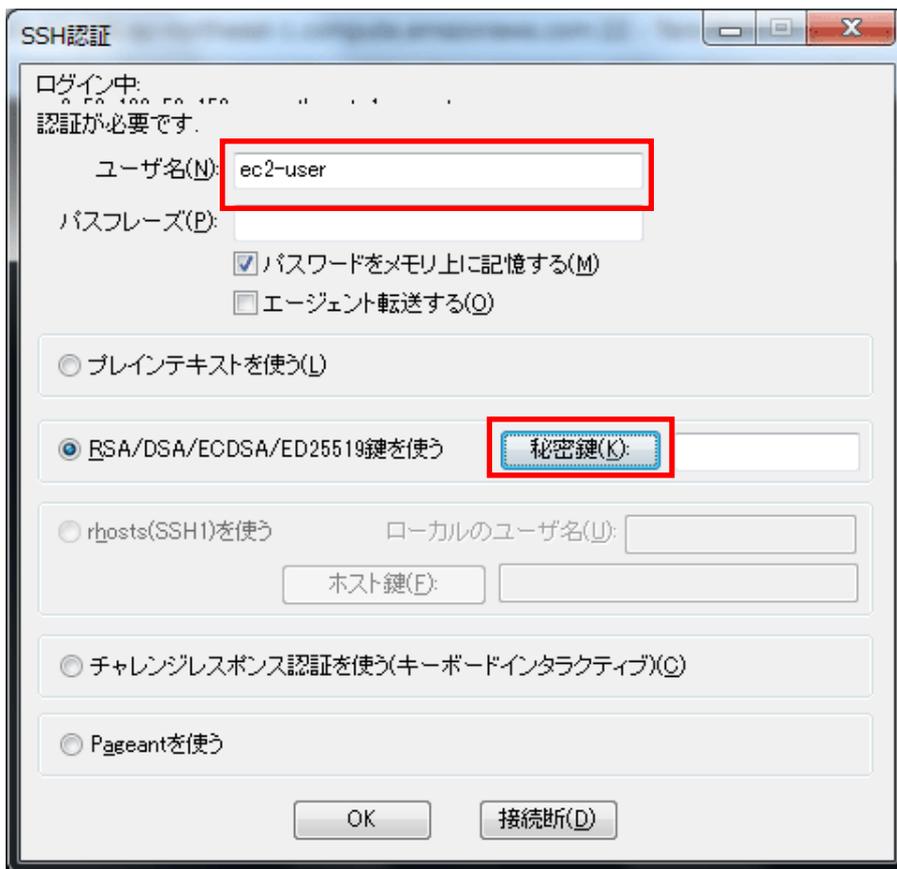
Tera Term が起動したら新しい接続ダイアログボックスの【ホスト】にお客様情報にある『コントロールサーバ URL』の内容を入力して【OK】ボタンをクリックします。



初回接続の場合セキュリティ警告が出るので【続行】ボタンをクリックします。

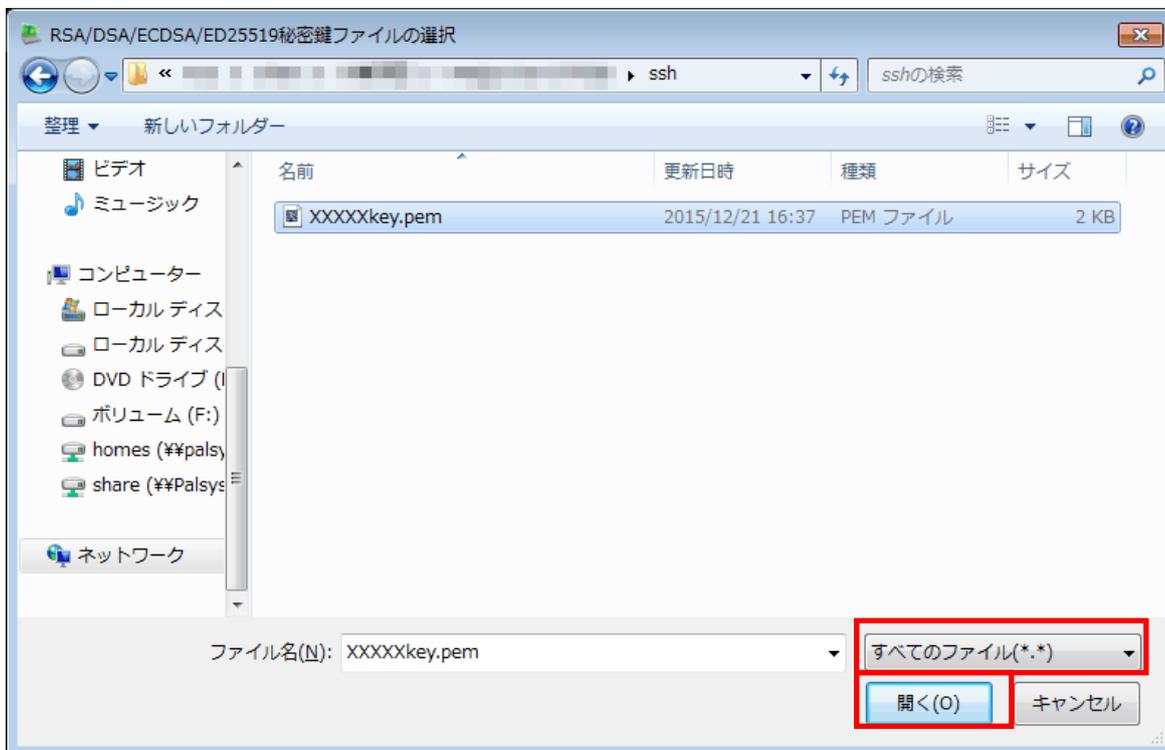


【ユーザー名】に「ec2-user」と入力して【秘密鍵】ボタンをクリックします。

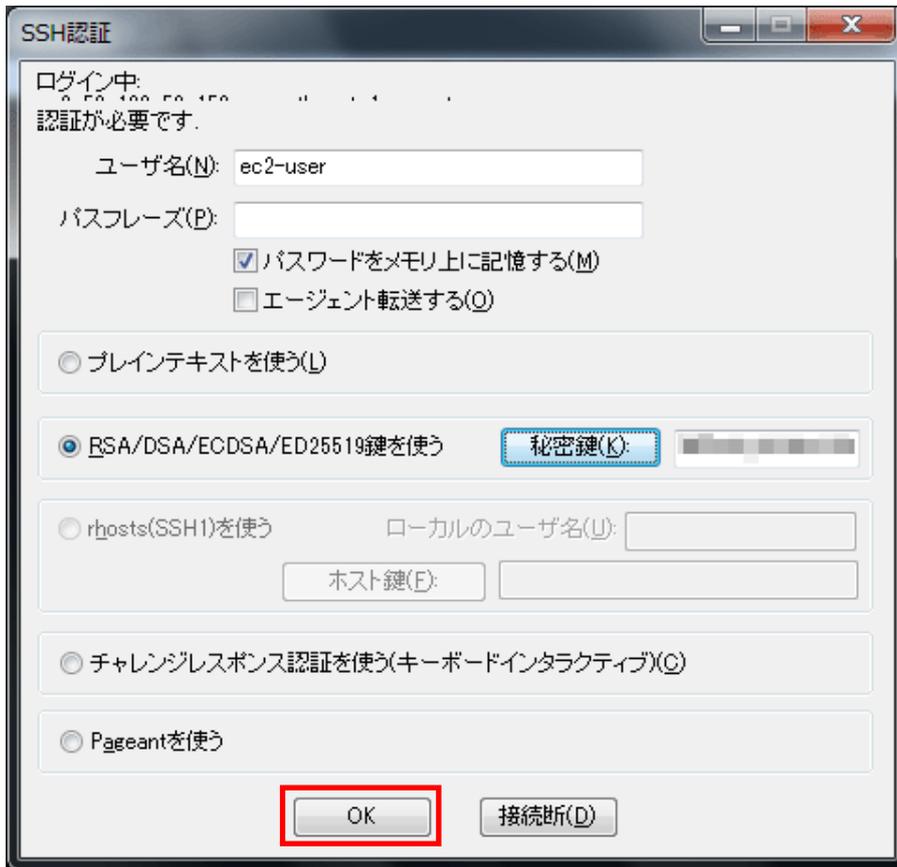


付属されているキーペアファイル (.pem) を指定します。

pem 形式なので【すべてのファイル】を選択しないと表示されません。

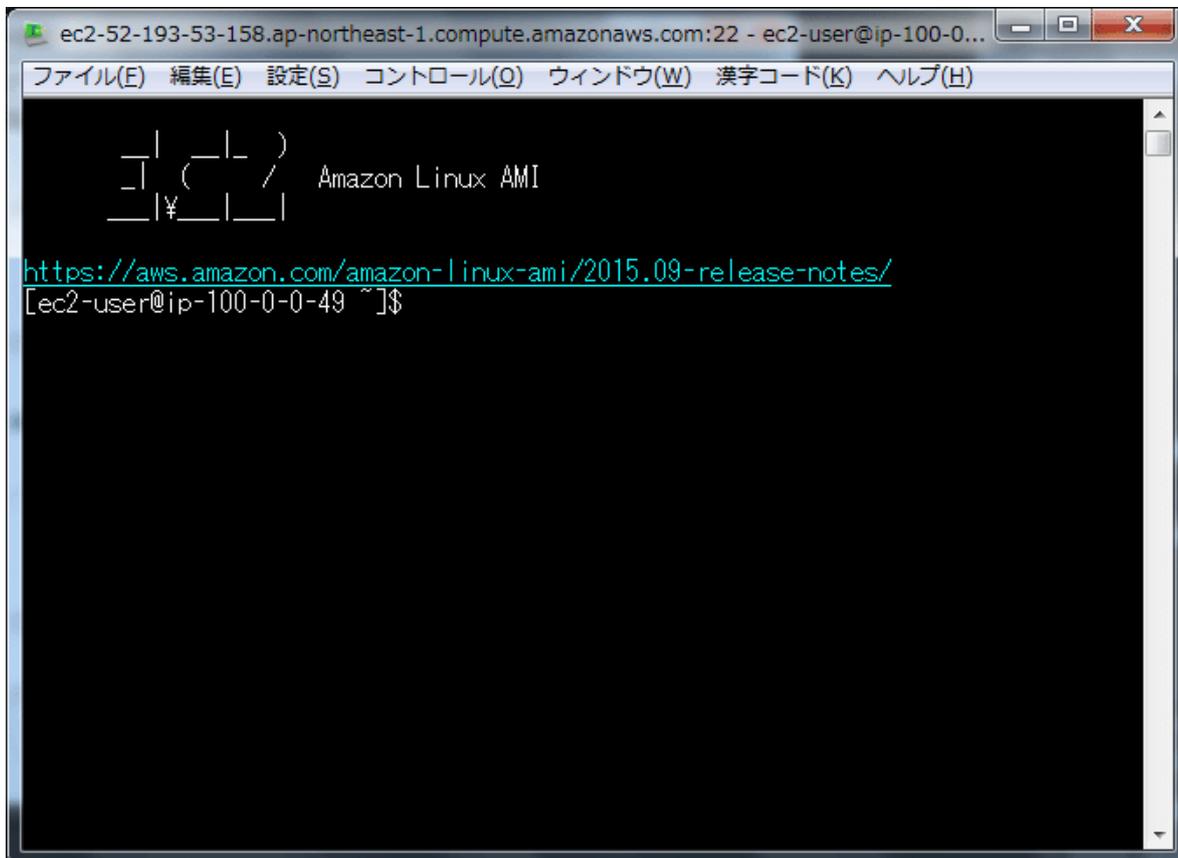


秘密鍵を指定したら【OK】ボタンをクリックします。



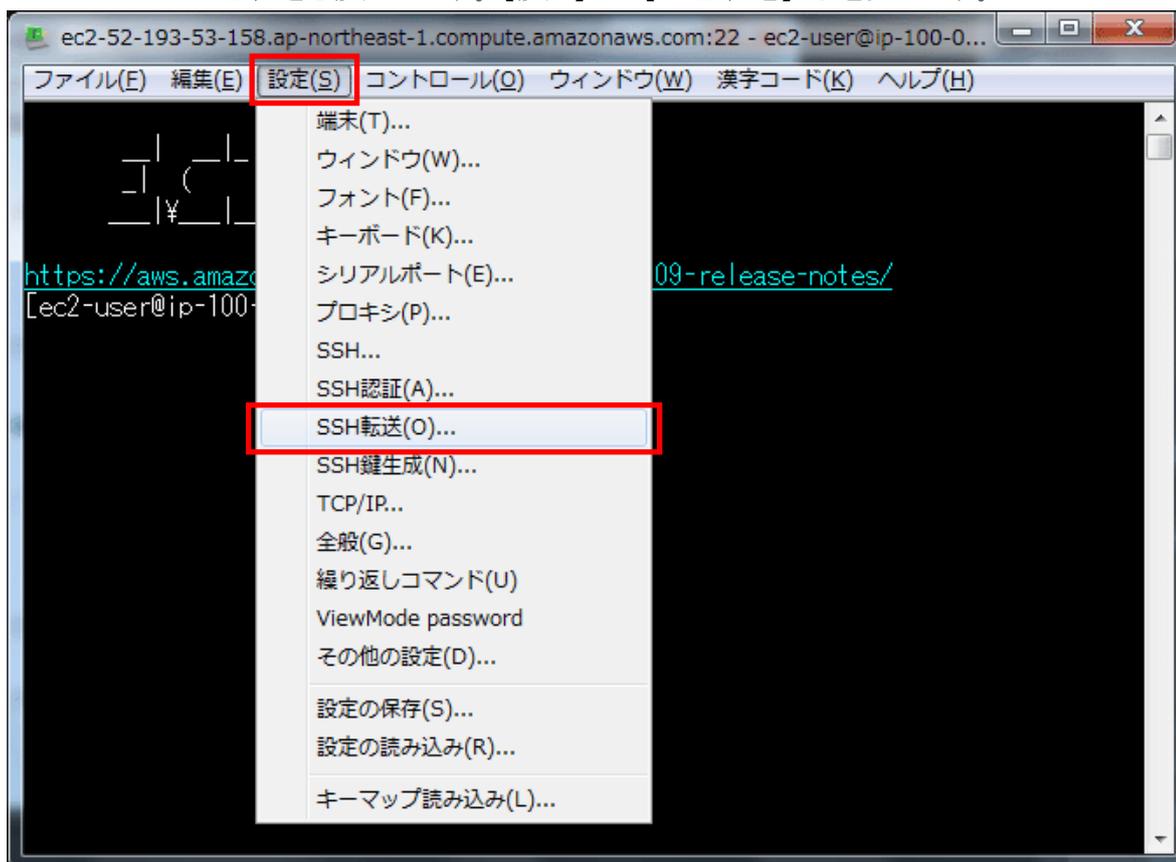
正常に接続できれば画面のようにコンソールが起動します。

SSH 転送はコンソールが起動している限り有効になるのでコンソールはそのままにしてください。

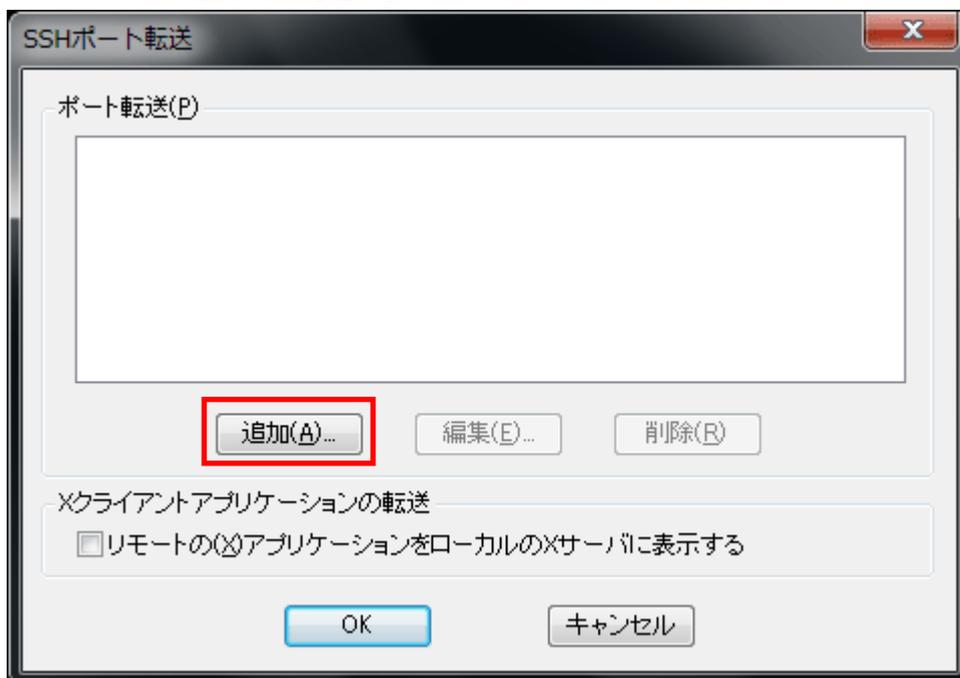


## 6.2. SSH 転送の設定

localhost の特定のポート接続をコントロールサーバ経由でデータベースへ接続するための設定をします。コンソールに SSH 転送を設定します。【設定】 → 【SSH 転送】を選択します。



SSH ポート転送画面で【追加】ボタンをクリックします。



データベースの種類によって接続ポート番号が異なるので MySQL と PostgreSQL によって以下のように入力内容が異なります。

『ローカルのポート』: localhost 側転送受付ポート

『リモート側ホスト』: 転送先のサーバ IP もしくは URL

『ポート』: 転送先接続ポート

それぞれ入力したら【OK】ボタンをクリックします。

### 6.2.1. MySQL の場合

Wagby クラウドのデータベースが MySQL だった場合は以下のように設定して下さい。

ローカルのポート	33306
リモート側ホスト	お客様情報の『Wagby クラウドデータベース接続 URL』を入力
ポート	3306

SSHポート転送

ポート転送を行う向きを選択:

ローカルのポート(L) 33306 リッスン(I)

リモート側ホスト(M) Xdb.fastwagbycloud.cc ポート(P) 3306

リモートサーバのポート(R)  リッスン(S)

ローカル側ホスト(A)  ポート(O)

OK キャンセル

### 6.2.2. PostgreSQL の場合

Wagby クラウドのデータベースが PostgreSQL だった場合は以下のように設定して下さい。

ローカルのポート	55432
リモート側ホスト	お客様情報の『Wagby クラウドデータベース接続 URL』を入力
ポート	5432

SSHポート転送

ポート転送を行う向きを選択:

ローカルのポート(L) 55432 リッスン(I)

リモート側ホスト(M) Xdb.fastwagbycloud.cc ポート(P) 5432

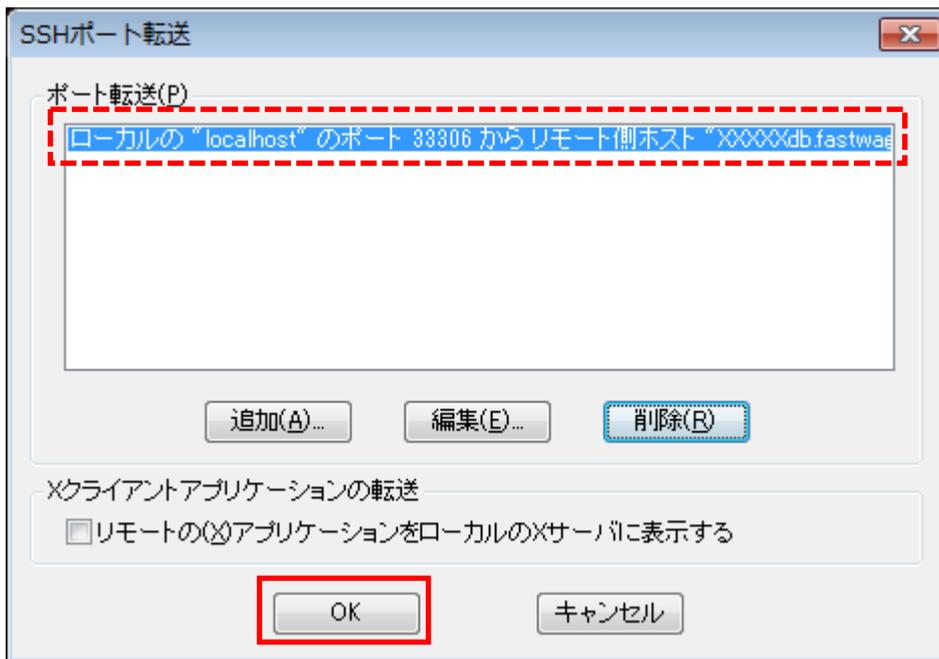
リモートサーバのポート(R)  リッスン(S)

ローカル側ホスト(A)  ポート(O)

OK キャンセル

### 6.2.3. 設定完了

SSH ポート転送画面に戻ったら【ポート転送】に今入力した設定が入っていることを確認して【OK】ボタンを押します。



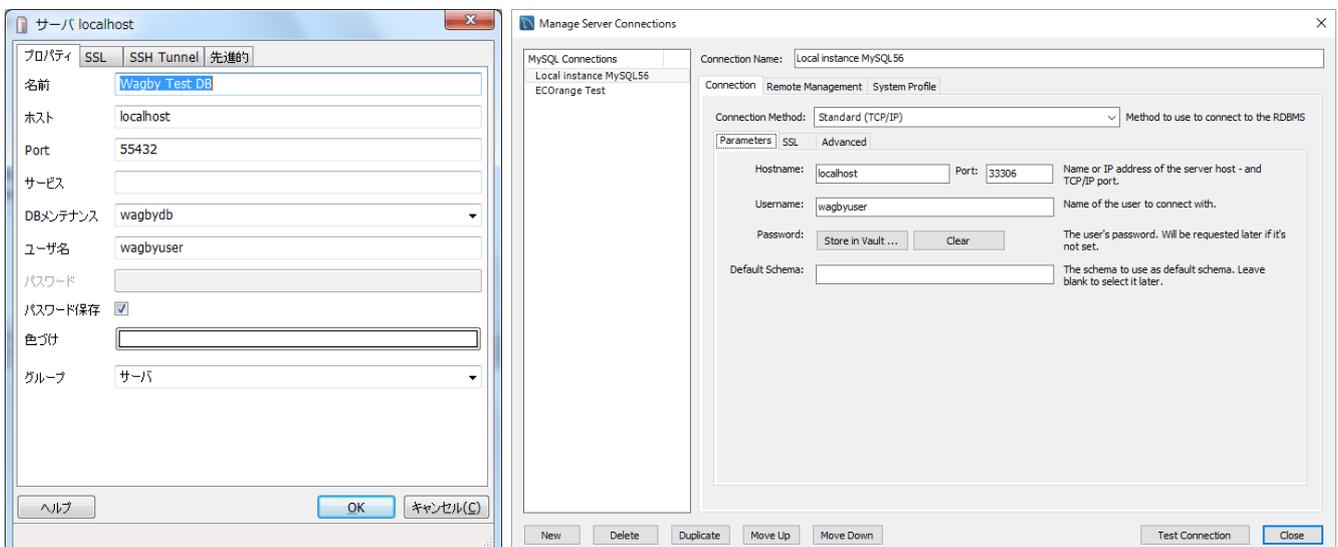
### 6.3. データベースに接続

SSH 転送を設定した Tera Term のコンソールが立ち上がっている状態でデータベースに合わせた管理ツールを起動します。

接続設定は以下のようにして下さい。

ホスト、Hostname	localhost
DB メンテナンス	お客様情報の『データベース名』
Port	33306(MySQL)、55432(PostgreSQL)
ユーザ、Username	お客様情報の『データベースユーザー名』
パスワード保存、Password	お客様情報の『データベースパスワード』

設定に問題なければデータベースに接続可能です。



## 7. FAQ

Q1.	【クラウドに転送】実行後 Wagby アプリケーションを開いても何も表示されない。
A1.	<p>いくつか原因が考えられますが、多くの場合は何らかの原因でデータベースへ接続できないためと考えられます。</p> <p>主な原因として</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・データベース名、データベースユーザー名、データベースパスワード、データベースの URL のどれかが間違っている。</li><li>・ライセンスキーを取得していない WagbyDesigner でビルド及び【クラウドに転送】をした。データベース接続の状況は『5.2 サーバステータスの確認』の「WagbyCloud_Server_Software」より「データベース URL エラーチェック」をご確認下さい。</li></ul>
Q2.	アクセスできるユーザー数が契約数より少ない。
A2.	<p>Wagby のライセンス認証に失敗している可能性があります。</p> <p>Wagby アカウント、Wagby パスワード、Wagby ライセンス ID をご確認ください。</p> <p>『5.3 サーバログを確認』で WagbyLogGroup/script/logs/license_update.log からライセンス認証の成否が確認できます。</p>

## 8. 各データ

### 8.1. グラフの詳細

#### 8.1.1. Database\_Status

項目名	AWS 上の名称 (メトリックス名)	説明
CPU 使用率	CPUUtilization	データベースの CPU 使用率
メモリの空き容量(Bytes)	FreeableMemory	使用可能なメモリ容量
ディスクの空き容量 (Bytes)	FreeStorageSpace	使用可能なディスク容量
ディスク I/O 操作平均回数 (回/秒)	ReadIOPS	1 秒あたりの読み込み平均回数
	WriteIOPS	1 秒あたりの書き込み平均回数
ディスク I/O 操作平均時間 (秒/回)	ReadLatency	1 回の読み込みにかかる平均時間
	WriteLatency	1 回の書き込みにかかる平均時間
ネットワークトラフィック (Bytes/秒)	NetworkReceiveThroughput	モニタリングやレプリケーション等を含むデータベースに対する全受信ネットワークトラフィック
	NetworkTransmitThroughput	モニタリングやレプリケーション等を含むデータベースに対する全送信ネットワークトラフィック

#### 8.1.2. WagbyCloud\_Server\_Software

項目名	AWS 上の名称 (メトリックス名)	説明								
httpd 稼働状況	HttpdRunning	Apache デーモンの稼働状況 稼働してなければ「0」 稼働していれば立ち上がっているプロセス数を返す。								
Tomcat 稼働状況	TomcatRunning	Wagby アプリケーションの稼働状況 稼働してなければ「0」 稼働していれば「1」を返す。								
httpd400 系エラー検知数	httpd400Count	5 分毎に Apache が出力した 400 系エラー (クライアントエラー) の数※1 例: 「404 Not Found」や「403 Forbidden」など。								
httpd500 系エラー検知数	httpd500Count	5 分毎に Apache が出力した 500 系エラー (サーバエラー) の数※1 例: 「500 Internal Server Error」など。								
ウイルス検知数	VirusCheckCount	ウイルスチェックでウイルスを検知した数 ※1 ウイルスチェックは 1 時間間隔で行われる。								
データベース URL エラーチェック	DatabaseURLCheck	データベース URL の指定に問題がないかのチェック 値の説明 <table border="1" data-bbox="981 1742 1444 1973"> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>URL の設定は正常である。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>URL に『localhost』が設定されている。(要 WagbyDesigner のライセンス確認)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>URL の表記に誤りがある。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Wagby アプリケーションがまだアップロードされていない。</td> </tr> </tbody> </table>	0	URL の設定は正常である。	1	URL に『localhost』が設定されている。(要 WagbyDesigner のライセンス確認)	2	URL の表記に誤りがある。	3	Wagby アプリケーションがまだアップロードされていない。
0	URL の設定は正常である。									
1	URL に『localhost』が設定されている。(要 WagbyDesigner のライセンス確認)									
2	URL の表記に誤りがある。									
3	Wagby アプリケーションがまだアップロードされていない。									

※「0」以外は正常に動作しない。

### 8.1.3. WagbyCloud Server Status

項目名	AWS 上の名称 (メトリックス名)	説明
CPU 使用率	CPUUtilization	Wagby クラウドサーバの CPU 使用率
メモリ使用率	MemoryUtilization	Wagby クラウドサーバのメモリの使用率
SWAP 使用率	SwapUtilization	Wagby クラウドサーバのスワップの使用率
ディスク I/O 操作容量(Bytes/5 分)	DiskReadBytes	5 分毎にディスクを読み取られたデータのバイト数
	DiskWriteBytes	5 分毎にディスクに書き込まれたデータのバイト数
ディスク I/O 操作総数(回/5 分)	DiskReadOps	5 分毎にディスクを読み取られた回数
	DiskWriteOps	5 分毎にディスクに書き込まれた回数
ネットワークトラフィック (Bytes/5 分)	NetworkOut	5 分毎の Wagby クラウドサーバに対する全送信ネットワークトラフィック
	NetworkIn	5 分毎の Wagby クラウドサーバに対する全受信ネットワークトラフィック
ディスク使用率(システム)	DiskSpaceUtilization(/)	OS システム領域のディスク使用率
ディスク使用率(データ)	DiskSpaceUtilization(/data)	Wagb アプリケーションやエクスポートデータが置かれるデータ領域のディスク使用率
WagbyCloud サーバ稼働エラー	StatusCheckFailed	システムかインスタンスどちらかに不具合が見つければ「1」を返し、正常に動作しているなら「0」を返す。

※1 カウントは定期的に行うのではなく、ログが更新されて初めて行われます。長い間ログの更新が起こらないとその間一切カウントが発生しません。もしログが見つからない場合は閲覧するログの時間範囲を広げると見つかる場合があります。

## 8.2. ログの詳細

### 8.2.1. HttpdLogGroup

グループ名形式

[ユーザーID]- HttpdLogGroup

[ユーザーID]-CloudFormationStackMakeCloudWatchGroup-[スタック ID]-HttpdLogGroup

ログファイル名	説明
[インスタンス ID]/etc/httpd/logs/wagbyapp_access_log	Apache が出力するアクセスログ
[インスタンス ID]/etc/httpd/logs/wagbyapp_access_log	Apache が出力するエラーログ

### 8.2.2. SystemLogGroup

グループ名形式

[ユーザーID]- SystemLogGroup

[ユーザーID]-CloudFormationStackMakeCloudWatchGroup-[スタック ID]-SystemLogGroup

ログファイル名	説明
[インスタンス ID]/var/log/messages	システムのメッセージログ
[インスタンス ID]/script/logs/virus_scan_history.log	ウイルスチェックログ

### 8.2.3. WagbyLogGroup

グループ名形式

[ユーザーID]- WagbyLogGroup

[ユーザーID]-CloudFormationStackMakeCloudWatchGroup-[スタック ID]-WagbyLogGroup

ログファイル名	説明						
[インスタンス ID]/home/wagby/wagbyapp/logs/system.log	Wagby アプリケーションのシステムログ アプリケーションの起動停止、誰がいつログオンしどのような操作をしたのかなど。						
[インスタンス ID]/home/wagby/wagbyapp/logs/localhost	Wagby アプリケーションの Web アプリケーションログ Wagby 内部で利用しているミドルウェアのログなどが出力される。						
[インスタンス ID]/home/wagby/wagbyapp/logs/initdb.log	Wagby アプリケーションのデータベーススクリプトログ データベースを操作するスクリプトを実行したとき出力される。						
[インスタンス ID]/home/wagby/wagbyapp/logs/catalina.out	Wagby アプリケーションの tomcat ログ コンソールで出力されたものと同じ内容のもの。						
[インスタンス ID]/script/logs/WagbyCloud_Database_url	server.xml からデータベース URL を抜き出した内容						
[インスタンス ID]/script/logs/license_update.log	<p>Wagby ライセンス認証結果ログ WagbyDesigner の『ライセンス管理システム』を設定した状態で【クラウドに転送】を実行したり、サーバ障害で立ち上がり直した場合に再ライセンス認証が行われ、その結果が出力される。</p> <p>メッセージ説明</p> <table border="1"> <tr> <td><i>INFO LicenseUpdator - Overwriting wagby-licensekey.xml is succeeded.</i></td> </tr> <tr> <td>ライセンス認証に成功した。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td><i>ERROR LicenseUpdator - failed getting license file. illegal content-type : text/html;charset=UTF-8</i></td> </tr> <tr> <td>認証サーバへ接続失敗。もしくはアカウントかパスワードが不正。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td><i>ERROR LicenseUpdator - failed getting license file. http response code : 400. http status : Bad Request</i></td> </tr> <tr> <td>認証サーバへ接続失敗。もしくはライセンス ID が不正。</td> </tr> </table>	<i>INFO LicenseUpdator - Overwriting wagby-licensekey.xml is succeeded.</i>	ライセンス認証に成功した。	<i>ERROR LicenseUpdator - failed getting license file. illegal content-type : text/html;charset=UTF-8</i>	認証サーバへ接続失敗。もしくはアカウントかパスワードが不正。	<i>ERROR LicenseUpdator - failed getting license file. http response code : 400. http status : Bad Request</i>	認証サーバへ接続失敗。もしくはライセンス ID が不正。
<i>INFO LicenseUpdator - Overwriting wagby-licensekey.xml is succeeded.</i>							
ライセンス認証に成功した。							
<i>ERROR LicenseUpdator - failed getting license file. illegal content-type : text/html;charset=UTF-8</i>							
認証サーバへ接続失敗。もしくはアカウントかパスワードが不正。							
<i>ERROR LicenseUpdator - failed getting license file. http response code : 400. http status : Bad Request</i>							
認証サーバへ接続失敗。もしくはライセンス ID が不正。							

※[ユーザーID][グループ ID][スタック ID]は任意の文字列です。システム上の ID なのでログ閲覧時に考慮する必要はありません。[インスタンス ID]も任意の文字列ですが、障害などでサーバダウンなどが起こると文字列が変わる可能性があります。